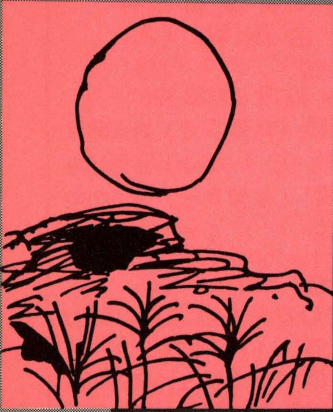


幼児の教育

第五十一卷 第十一号

日本幼稚園協會



11

紀

フレーベル館の保育用品

No. 41 幼児指導要録
B 5判、4頁、文部省御制定の制式のも
のです。 定価一部 5円

No. 43 指導要録表紙
定価 50円

No. 45 保育日誌
大変御好評をいただきました保育日誌、
諸先生方の御要望に添えルーズ・リーフ
式にして御便利をはかりました。用紙イ
ンク止め完全、厚上質表紙を添えて50枚
に付

定価 200円

No. 47 園籍簿
定価1枚 2円50銭

No. 48 身体検査票
B 5判、文部省令第7号学校身体検査規
程による制式のもの 定価1枚 2円50銭

No. 49 父母への報告書
B 5判 定価1枚 2円50銭

No. 50 園のたより
A 6判24頁 定価 15円

No. 51 同カバー 定価15円

No. 53 卒園臺帳
B 5判 定価1枚 2円50銭

No. 55 保育料袋
定価1枚 2円50銭

No. 56 保育證書(A)

No. 57 保育證書(B)
AはB 4判、BはB 5判

定価A 10円 B 7円

No. 58 園児募集ポスター(A)

No. 59 同 (B)

AB 2種あります。大きさは約1尺5寸
× 2尺幼稚園、保育所共用

定価 A B 各 15円

No. 72 出席簿 (縦型)

定価 1枚 2円50銭

No. 101 出席カード

A 5判13枚(表紙共) 定価 30円

No. 102 出席カード用カバー
定価 15円

No. 103 出席カード用貼紙
10人分12ヶ月一箱 定価 200円

No. 111 むりえ (初級)

No. 112 同 (上級)

B 5判各16枚 定価各 35円

No. 116 えとむりえ (No. 1)

No. 117 同 (No. 2)

B 5判各16枚 定価 各 35円

No. 118 おさいく帳

B 5判 12枚 定価 30円

No. 126 自由画帖 (A)

No. 127 同 (B)

定価 A 35円 B 28円

No. 131 折紙 (特製5寸) 定価55円

No. 132 同 (ノ4寸) 定価40円

No. 133 同 (並製5寸) 定価40円

No. 134 同 (ノ4寸) 定価30円

以上いずれも1色100枚包の値段です。
色の種類は12色。(並製は11色)

No. 156 まんてんくれよん(10色)

定価 50円

No. 157 同 (8色) 定価40円

No. 158 お道具箱 定価60円

No. 160 鉄 (先丸鉄) 定価35円

No. 168 たのしいおしごと

お茶の水の及川先生の新しい企画にな
る工作の本です。 B 5判16頁定価45円

No. 74 園のたより用ゴム印

定価1組 12ヶ 200円

上記用品の御用命は本社、並
に御県を管轄する本社代理店
に御申し付け下さいませ。

発行所 東京都千代田区神田 株式 フレーベル館 振替口座東京
神保町二丁目四番地 会社 一九六四〇番

幼 児 の 教 育

第五十一卷

第 十 一 號

昭和二十七年十一月

目 次

表 紙	中 川 紀 元
ゆきとどかない人	倉 橋 惣 三(2)
(ヌース)考えてみましょう	及 川 ふ み(4)
幼児の躰と道徳教育	吉 田 昇(14)
私のみてきたアメリカ教育	児 玉 省(6)
保育所の家庭化的運営	鈴 木 豊 蔵(19)
自由遊びの性格	宮 内 孝(12)
こどもの怪我の応急手当	平 井 信 義(26)
幼児の絵画製作の種類(2)	副 島 ハ マ(30)
いたずらつ子	谷 口 和 子(33)
11月の保育	堀 合 文 子(37)
アメリカ通信(3)	鈴 木 と く(37)
折にふれて	津 守 真(50)
	(52)

編 集 主 幹 倉 橋 惣 三

協 力 委 員 牛 島 義 友 及 川 ふ み 斎 藤 文 雄

多 田 鉄 雄 波 多 野 完 治 山 下 俊 郎

編 集 委 員 西 山 浪 太 郎 (五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 會



ゆきとどかない人

— 子供のけがに關して —

倉 橋 惣 三

本号には、編集部からお願ひして、平井先生に、子供のけがの応急手当のことを書いていたゞいてゐる。けがは、偶然のことに相違ないが、幼稚園では必ずしも稀でない。そのとき、すぐ、適當の手当をすることは、先生方のおこたつてならない必要である。そのための常備薬さえない幼稚園は、大切な多勢の子供を預つてゐる場所として、いわば怠慢の至りである。若し、常備薬が、いつか備えたまゝで、瓶はあれども液が無くなつていたり、袋はあれども粉が空になつていたり、備えた管だが仕舞い忘れていたりでは、急に間にあわない。急の間にあわなければ、全然間に合わないと同前である。

応急手当の仕方については、平井先生の教えに従うとして、そういう必要のないように、前から、ふだんから氣を配つておく必要がある。そして、これは、家庭では親、幼稚園では先生の任務である。幼児がけがをすると、お前さんが氣をつ

けないからだと叱られるのでは、その通り御尤もではあるがわれ／＼は同じ言葉を、先生に献上したい。

子供にけがをさせない秘訣は、子供をじつと戸棚に入れておくに限る。が、それでは、自發活動まで戸棚の中で腐つて仕舞うというところで、保育精神のある先生はそんなことをしない。遊べ／＼自由に、活潑に、ちゆうちよすることなく、どし／＼遊びなさいと、モーションをかける。但し、けがはしないようにね、と附けたして。

特別の白痴を除いては、けがを多くするのは、元氣な子である、——と同時に、子供に多くけがをさせる先生は、めはし、こゝろの動きの、ゆきとどかない人である。

深い保育のこゝろはもつていても、日々のこまかいことになんともあ、とんとゆきとどかない先生が、案外あるのでないでしようか。大きな鉄、よく切れるナイフを、机の上に出

しばなしにして、チョット、外へ出る先生（長くではないのですが）遊園の敷石の中に、とがつた石ころがあるのを、そのまゝ大切に保存しておく先生、水のはいつている大きなカマを、この中に落ちるとあぶないですよと、反対暗示まで御丁寧に与えて、蓋をしないでいる風流な先生。——例を挙げていけばきりがない程、ゆきとどかない先生が失礼ながら、そこらにいらつしやいませんか。

口でいうことは、よくお氣がつかれるが、そらあぶない、そらけがをするよ、と、先生お目がおありですか、といふたくなる。目は此通り二つありますが、ついつかりしているといわれると、こつちでも、御尤もで、毎日お忙しくて、お疲れでいらつしやるからと、それでも御挨拶するよりほかない。が、こうして、子供のけがの原因は、先生にあることを断言（？）せずにはられない。——幼稚園のけがの原因は子供になくて先生にある——殊に、それが屢々慢性的であるのは困る。——時とすると子供のけがは、あの先生の組にきまつているといつた人がある。——そして、その組に限つて、常備薬が、品切れになつているかもしれない。先生のゆきとどく心がカラなのだから、それも当然のことかも知れない。

けがをするたびに、子供が注意深くなる。教育効果があるという名説がある。しかし、けがをするたびに、用心深くなり、臆病になり、活気がなくなり、年寄りになるといふ、理論もある。どつちにしても、うんと元気に遊んでも、けがの

原因をなす伏兵のいないところこそ、子供、殊に親が、安心して子供を通わせることのできる幼稚園である。そして、その伏兵掃蕩の任は、一つに先生のゆきとどく心——目——のほかにはない。

けがなどは小さい問題だ。保育上の大問題ではないという卓説が出たり、筆者は大反対である。幼稚園は、何よりも先づ、幼児のための安全地域である。教育にはゆきとどかないと、だらけで申訳ないが、お子さんをマーキユロだらけや、バンソウ膏だらけにして家へ帰しては、誰れが幼稚園に安心せんやである。だいな子供が一つけがをしたら、その先生にも一つけがをさせたい位に、筆者は憤慨する。それが、余り乱暴（？）なら、当分赤い色の消えないマーキユロや、なか／＼はがれないバンソウ膏で、その先生の白い柔い肌を罰点をつけたいとも思う。冗談ではない。先生の責任のせめてものしるしとしてである。

正 誤

本誌第九号（九月号）巻頭の主幹論文中第二ページの『近時、国公立幼稚園保育所の……』は、『国公立幼稚園保育所の……』の誤植であり、『私』の文字の脱落していたことを訂正します。



考えてみましよう

毎日の幼稚園のしごとについて

及川 ふみ

今年の暑さは例年になくきびしかつた。この暑さにまけず全国各地では、認定講習会をはじめ、保育の各方面にわたつての講習会が数多く開催されたようである。しかもいずれの会、いずれの会にも、それぞれに参加された幼稚園の先生方の数は実におびただしい。その意気たるや盛んなもので、実に元氣そのものの様な感じが深かつた。

幼稚園の先生は日常忙しい勤務の連続である。せめて夏やすみだけでも心身にゆとりのある生活をして、叡氣を養いたいとのぞむところではあるが、実情はなかなかそれもかなわず、休みの半ば近く講習会に、研究会に出席せられている様子である。幼稚園の先生方は概して外の学校の教職員よりは年令的にも若いという有利な点もあ

るうが、それ以上に熱意にもえて、勢力旺盛である。その意氣頗る高い。しかしそれにも限度のあることを考えましよう。

身体をいためない程度ということである。健康を損ねないということである。からだを考えて仕事をするのは年寄りのする事かもしれない。そのせいか案外からだを損ずるのは若い先生方に比較的が多い様でもあるらしい。とにかく健康な身体が幼児たちの相手をするのに必要な最大の条件である、と同時に又義務でもある。これはわかりきつたことであると云えばそれだけでおわるのである、がそのわかり切つたことが、時々わかりきらない方があつて「自分の健康」ということを考えている暇もなく、自分自身を酷使して、いつの間にか身体をそとね、氣分的にもいらいらし、又大事な幼児や、同僚にも迷惑をかけることにもなつてしまうこともある。

考えてみましよう、毎日の勤務について

○保育の面について

暑さとたたかつて取得した様々の保育の理論的研究と、体験による保育の実技の数々を明日の保育の實際に役立たせるについても。

保育計画の上

その企画が保育の核心をよく把握することが出来ていたかどうか。

実施の上に

適切な実施の方法が撰択せられてあつたかどうか。

とくに実施の点で、先生方の心身の労力の費がいたづらに多くはなかつたか。それに比して幼児たちの指導の面で不満なところが多くはなかつたか。

保育計画、保育の実施について再検討の上先生方の過重な仕事をしりぞけて、能率的な仕事によつて時間の冗費をはぶきたい。

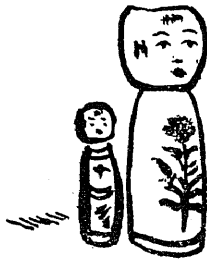
○事務の面について

幼稚園は幼児の保育の実際の外に、研究、調査について、それぞれの準備、整理などの研究に附帯する事務的のことで時間を消費することもさらに大きい。これに加えて、事務的の事務、ならびに提出する報告書類など年々月々に繁雑を加えている実情である。

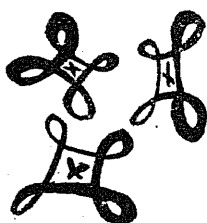
一園の先生方協議の上、各自、その長所とするところを長所として、互に短を補うことを考えて、心身の過労をさけたいものである。幼児にとつて幼稚園は楽しい場所であることが第一にのぞましいことであることほどの先生方もよく了解されていることである。幼児にのぞまれる「幼稚園は楽しい場所」は同時に幼児と一緒に遊ぶ

先生方にも第一にのぞまなければならないことである。

楽しい場所は心身の健康の上に建設せられるのである。二十七年度の後半は、いやが上にも心身の健康という点を考えて、たえるに任せての過重は避けましょう。要は「楽しい場所が楽しい場所としていかに持続するかにあるかを考えましょう。さけましょう時間の冗費、勢力の冗費、明朗な秋を迎え、さらに明朗な冬を迎えようではありませんか。



私の見てきた
アメリカの幼児教育
省 玉 児



筆者は昨年一月末から四月末までの間アメリカを視察してきた。倉橋先生からその時に見てきたアメリカの幼児教育に就て書けとの仰せつけを受けた。元來筆者が昨年アメリカを視察した時には、日本心理学会と日本応用心理学会から、臨床心理学の分野を見てくるようにとの言いつけがあつたので、幼児教育の視察は勢い二次的なものとなつた。ただ筆者が従来担当している学科の関係上、幼児教育に対する関心は視察期間中ズツと持ちつづけられてはいたけれども、幼稚園やナーサリースクールでも三つ見たいと思つたところは、一つになり、訪問していろいろ話をきいてきたと思つたところも訪問できないで終つて了つた。そういう意味からは、幼児教育の視察としては甚だ不完全であるが、倉橋先生のおいいつけに従つて見てきたまゝを——多少古くなつたが——書きつづることにした。

首都ワシントンで

二月の下旬首都ワシントンにつくと、約二週間の滞在中、臨床心理方面の視察のかたわら、是非一度ナーサリー・スクールを見たいと思つた。というのは、三、四年前司令部の資料の中で読んだものの中に、戦前まで公立教

育は下から上へ上へと伸びて行つた。即ちハイスクールが無料の公立教育になつていたのが、更に上に伸びて短期大学にまでも及ぼうとするような形勢を示していた。然し戦時中家庭の婦人勞働が動員せられるにつれて、幼児の教育と養護を担当する施設としてナーサリースクールが必然的に増設せられて行つた。そして嘗ては有産階級的な色彩を持つていたナーサリースクールは普通一般の家庭のための施設となつた。その多くは公立として開設せられたが、これは公立教育が小学校から下に伸びて行つたもので、今度の戦争がもたらした一つの遺産となるであろう。というような意味のことを讀んだことがある。それで筆者は、アメリカには、戦時中から戦後にかけて、うんとナーサリースクールが殖えていくことであろう。それも新しい公立的なものであると期待してやつてきた。この心持ちから、首都ワシントンに滞在中に是非一つ二つサンプルを見て置きたいと思つて、筆者らを世話してくれた Federal Security Agency の人達に、適当なナーサリースクールを紹介してもらふことを依頼した。ところがそう簡単に見つからないようで、漸く一つだけ、それも相当離れた所にあるものを見つけた。

紹介して貰つた所はイングラハム街と第九街にあるトルーステル実験学校の幼稚園であつた。行つて見ると体育館兼用の広々とした

保育室に可愛い五才児が十人余り一人の先生と一緒に絵本を見ている所であつたが、筆者が室に入るとみんな筆者の方を振り向いた。先生が子供に向つて「今日お客さんがあると云つておつたでしょう」と云うが否や、子供たちは筆者に向つて次から次と質問を浴せる。

「どこから来たの？」……「東京から」。

「東京でどこにあるの？」……「ココからうんと遠い」と云ふ。

「それワイリッピンにあるの？」……「それは日本にあるのだよ。日本でどこにあるか知つてる？」

教師がこの質問を引きとつて「みなさんどこにあるか知つていますか」ときいたが、みんな「知らない」と答えた。まだ子供は質問してくる。

「どうして(どういう方法で)ここにきたの？」……「飛行機できた」日本の羽田という飛行場を立つてシャトルという所に着いて、それからまた飛行機でワシントンの国立飛行場に着いたことを話すと、先生がまた「シャトルのこときいたことがありますか」と尋ねる。三、四人の子供を除いて

みんな手を上げて「ハイ」と云つた。

筆者はこの学校で筆者を案内してくれた先生に、ワシントンでナーサリースクールで学ぶ所はありますか？と尋ねたら、先生は「そういうものは戦争中はあちこちにあつたようだが、今はなくなつてしまつていゝ」といふ答であつた。これは筆者にとつて全く意外な答であつた。ナーサリースクールはうんと殖えているだろう。しかも公立のものが沢山あるだろうと予想してきた筆者にとつては、まるで狐につままれたような感じであつた。

コロンビア大学附属

ワシントンから紐育に行つたが、ここにも余り沢山はないようである。少くとも、普通の人にきいたぐらいでは一向にそんなものがあるのかどうかさえも知らない。でコロンビア大学のチーチアスカレッツチに行つてラッセル・アブネス・スクール (Russell Abnes School) のナーサリー・スクールを見学した。ラッセル・アブネス・スクールというのは、コロンビアの教職員及び大学院の学生の子供だけを収容している学校で、チーチア

ース・カレッツチ附属のものホレース・マン実験学校は一九四八年に閉鎖になつて、その後でできたものだそうである。何故あの有名な実験学校が閉鎖になつたのか？案内してくれた人は筆者に、実験学校という性格が子供の教育上好ましい条件でないことを発見したからであると説明してくれた。このナーサリー・スクールでは十二名の子供が二人の教師のもとに六名ずつ二組に分れていた。広々とした学校の室内体育場が保育室で、子供達はそのなかでただたのしく遊んでいる。教師は何も特別に教えようともしていないで、一緒になつて遊んだり、または自分で好きなピアノの曲でも弾いてさえるようである。

十時半になるとジュースを、希望者にだけ飲ませてくれる。何も特別な保育案みたいなものは、一向にないようである。一人子供の母親らしい人が参観にきているが、大きい室の隅の方で本を讀んでいる。十二時になると解散する。もとの実験学校は有名な学校であつたが、これはまた何と事もなげな保育であつた。先のワシントンの幼稚園の有様といふコロンビアのナーサリー・スクールといふこれは筆者には予期しないことばかりである。

この問題をもつて、筆者はコロンビアのナ

ーチャイスカレッジの幼児教育の専門家ドリ
スコル博士 (Dr. Driscoll) に会った。アメ
リカでは、ナーサリースクールは無くなりつ
ゝあるのかときいたら、そういう訳で
はないが、三才未満の者はナーサリースクー
ルには早過ぎる。その頃の子供は親の所にあ
つて、直接その愛情と庇護の下にあるべきで
あるという考えが、多くの人々によつて認め
られるようになったというのである。これは
ナーサリースクールが一才半か二才頃の早く
から、生活習慣の躰の役割を引受けることを
主張していた頃に比べると、かなりの変化で
ある。筆者はこんどの視察中十幾つのナーサ
リースクールを見たが、そのうちで二才児を
——それもほんの数名だけ——預つていたと
ころは二個所だけであつた。

サンニイサイド保育所

コロンビアからの紹介で、筆者はそれから
低収入地域にあるサンニイサイド保育所を訪
れた。これはユニオン・セツトルメントとい
うセツトルメント事業の一部をなすもので、
コロンビアの学生の保育の実習の場にもなつ
ている。第二次大戦が始まつて間もなく、幼
く母親のために開設せられたもので、保育の

費用は当時は、州と市と両親が各々三分の一
ずつを負担していたが、現在は紐育市が三分
の二、親の側で三分の一を負担している。戦
時中は一週六日間朝七時半から夕方六時半ま
で開所したが、現在は八時から六時になつて
いる。子供を此処に預ける資格としては、一
家の収入が一定額以下であることと、母親が
働いていて子供の世話ができないか、または
母親が病氣その他の理由で子供の面倒が見ら
れない場合である。サンニイサイド・ナーサ
リー・スクールとも呼んでいるようであるが
、実際は保育所である。然し保育所と云つて
も保育に幼稚園的な特長を持つている。子供
を大きく二つに分けて、学令前のもの三才か
ら六才までと、六才から十才までの学令期
のものとし、前者が八五名、後者が九〇名、計
百七、八十名の世帯であつた。学令期のもの
は、正午の時間には弁当に帰ってくるし、学
校がすむとまた帰つてきて母親が連れにくる
までをここで過ごすことになつていた。幼児
の方は七〇名を六つのグループに分けて、平
均十二名一組とし、各グループに教師が一名
づつ、そして最年少グループには教師が二名
また最年長グループは十八名或いはそれ以上
で教師が二名、中間の年令層のものは十三、
四名一組として、教師が一、五名の割合で配属

せられてゐる。教師は凡て大学出で、MA(修
士)の称号を持つた人が何人かいた。そして
男でMAの所有者が一人いた。教師の勤務時
間は七時間半で、早出の人と遅出の人があつ
て、中間の時間の所で多少重複するようにな
つてゐる。

この保育所は、貧困街のミスボラシイ建物
の中にあり、室数も充分でなく、狭い中に家
具や遊具や子供が、一ぱいつまつてゐるとい
う印象である。保育の状態は、大体伝統的な
幼稚園またはナーサリースクールのやり方を
時間的に引き延したようである。保育案に従つて、
例えば九時から九時半まで戸外遊、十時か
ら十一時十五分までお仕事、それからお話、
十二時十五分食、一時から三十分間休息、
(昼寝をふくむ)その後は極めて緩まんな行
き方で、三時—四時戸外、四時から帰宅まで
室内というようになつてゐる。一つの組が使
い得る狭い所が只だ一つだけで何もかもその
一室でやる。教師の給料は普通の仕事より低
いが、それでも挺身してやつてゐる。移民の
子供たちがゐるので、英語が全然分らない子
供がゐる。それに性格的な問題児がゐる。し
かしても手のつけられないような問題児に
は、保育所全般の利益のために、その子供を
引受けられない旨を、はつきり母親に宣言す

るということである。子供には黒人の子供もいるし、十二人の教師の中には黒人の婦人もいた。そして一つ特長的なのは、コロンビアのMA称号を持つている男の先生で、ぶきつちよな格好であるが、なかなか子供を上手に扱っていた。男親のない子供達もあるようで、そういう子供達には男の先生もいと云つていた。

バンク街学園

紐育では、ナーサリースクールを訪れるものは、バンク街学園(The Bank Street School)を見落すことはできない。ここは、有名なハリエット・ジョンソン・ナーサリースクール(Harriet Johnson Nursery School)があるところである。一九一七年教育実験所の名前で発足し、現在は教育学部とナーサリースクールと、研究及出版部などで組織せられていて、ナーサリースクールと保姆養成機関と、研究所を兼ねたようなものである。行つてみると、幼児教育の専門家のような人達があちこちと二、三人づつ参観にきている保育は全部室内で行われて、戸外活動のために屋上が使われている。

ここでは在来の伝統的な保育方法が多少濃

り厚に現われていた。歌をけいこさせたり、トミックのようなことをさせたり、お話をしたりしている。非常に上手な技巧であるが、かなり教師が先に立つて指導するという連り方である。一つ面白いと思つたのは、子供を床の上をはわしたりはつで引つくりかえらせていることであつた。戸外で充分な運動をさせることができない子供達に、かなりの運動をさせることになつていたのであろう。屋上の運動場はまことに上手に経済的に使用せられていふと思つた。屋上のスペースを、低いかきによつて三つばかりに区分してある。小さい子供達のためのものと、多少大きい子供達のためのものと、多少異つた遊具が置いてある。区間と区間の間には通路はあるけれども、小さい子供達は自分の場所で、大きい子供達から侵されなくて遊んでいる。この種のかきは、後で述べるように、エール大学でも見たが、いい思いつきであると思つた。全部の子供に一時に屋上を使わせることはできないので、かわるがわる室内から屋上に出している。屋上はずつと自由遊戯になつていようであつたが、この種のナーサリースクールでは、勢い多少こまかい保育案をたて、それを時間的にきちんと守らなければならぬ理由もあつてであらうか。保育全体の印象が

在来の伝統的な色彩を多分に持つていると思つた。ことに参観者が絶えずあるということ、は、きれいなあざやかな活動をして見せるような結果になつていふのではなからうかと思つた。ちなみにバンク街学園のなかの教育学部には、昼間部と夜間部があるが、正規な学生は大学院程度で、大学院では修士の称号まで与えられることになつていふ。

エール大学附属

紐育の次はニウ・ヘヴンにエール大学のナーサリースクールを訪ねた。こゝではゲゼールに会つてその主さいする児童研究所を見ようというのが、主な目的であつたが、ゲゼールはエールを去つて、同じニウ・ヘヴンではあるが、ゲゼール発達研究所を開設して、エールの研究所は全く陣容を一変して研究のテーマも全くちがつて了つていふ。ナーサリースクールはプロヴィンス博士に案内して貰つて、午前中をゆつくりと見学した。

三十名あるかないかの極く小さいナーサリースクールである。二才児も少しいる。二才児と三才児の遊んでいる所を観察用スクリーンを通して見せて貰いながら、保育の方針を質問する。「私達は決して競争を強要しようと

はしません。そしてきまつた保育案などというものはありません。大体ただ好きなようにさせて置くんです。十時半頃ミルクとかチョコレートミルクとかを飲ませ、クツキイを与えます。教師がお話をしてやる時もそうきめてはいないで、適当と思う時に、してやるんですが、それも聞きたいと思う希望者だけが果まればいいんで、あとの者は好きなことをやらしておきます。喧嘩をすれば止めます。天気によければ表に出します。」というような話である。なかには専門の保姆が一人、それに大学院在学中の学生の実習生が三名いる。

ほんとに特別に何もしていない。ただ自然に遊ばしてある。そして「その自然の状態の中で社会生活に慣れるように、人との間の関係が適感できるように」ことを目的としていてと云う。教師が一人お話をされていてやっているが、集まっているのは数名だけで、あとは好きなことをして遊んでいる。オヤツがすむと戸外に出した。大きい子供のグループと小さい子供のグループの間には、かきかきしてある。小さい方のグループ、が大きい子供達のために乱されることのないようにと云うためだと云う。小さい子供達は、おもちゃの乳母車を押しているのが多い。大きい方はジャンピング・ボードに一人二人遊んでいる。

る。それからジャングル・ジムに四、五名登った。見ていると危なっかしいのだが、殆んど放任してある。あとになつて小さい方はスコープを持ち出して土を掘っている。教師は相変らず、見ているだけで何もしていない。その間に心理学者と大学院の学生が観察のために現われる。教師は大きいグループでは六人に一人、小さい方では四人に一人の割合で——実習生も含めて——についている。ただし室内では、おやつ準備や片づけは子供にさせないで、教師がしている。「これを子供が働做して、自然のうちに習うように、というのが考え方で、且つこの年齢程度の子供にこんなことの難をすることはまだ早い」と仰しやる。

集団的活動については、小さい方の子供にはそう期待していない。大きい方ではおのずとかなり集団的になる。一緒に話しまくし遊戯もする。「然し教師が先に立つて、集団をリードしたりすることはしない。そういうことをすると、子供達は教師がするのを待つて、事をするようになる。恐れがある」と仰しやる（以上 Dr. Province の話）。

環境は広くて静かだし、教師も子供も極めてのんびりと遊んでいるといった風景である。小さい方の子供には時に教師に甘つたれ

るのがあるが、そう多くはない。筆者はこの保育の有様を見て、まるで今まで頭の中に画いていた保育とすつかり異なるものを見せつけられたのである。このたくまざる放りつばなしのように見えるやり方は、コロンビアでも一寸感じたのであるが——、これでいいんだらうか？ これで最上の教育効果が期待できるのだろうか？ 筆者は自問自答せざるを得なかつた。然し当事者たちは、そんな事には一向無頓着に、知らん風をしてやつていてという印象である。ただ筆者が一つ深く印象づけられたことは、子供達が伸び伸びとしてしかも興奮なしで（騒がないで）楽しそうに遊んでいた姿である。そして教師はその場面にいるかいないかのような存在であつたことである。

ルーミング・イン・ア
レインジメント

エール大学の医学部はルーミング・イン・アレインジメント(Rooming-in Arrangement)で有名である。従来アメリカでは病院でお産をする時には、お産をしてみましょうと、母親の健康のためと、完全な衛生的な取扱いをするという意味から、子供を産婦の所から引き離してつて別室で世話をし、かつ母親の安靜

を守るために家族の者も母親の所へくることを許されなかつたものである。然るにこういう育児の方法が子供の精神衛生のために最善でないということが云われるようになって、その改善案として考えられたのがこのルーミング・イン・アレインジメントである。この方法では赤ん坊は燐室へ寝かして、産婦の調子がいい限り赤ん坊を連れてきてお乳を飲ませたり、または抱っこしたりさせる。父親を始め他の家族の者も病院の母親の室へ来ることを許す。それから授乳方法についても今から十五年前までは、キチント時間通りに飲ませていたものであるが、現在ではかなり要求授乳法 (self-demand schedule) をとるようになっていた。余りきちようめに時間のことを言わないで、欲しがる時にやるというやり方である。こういう方法は我々日本人にとつては一向にめずらしい方法でもないのであるが、アメリカでは今新しい傾向として取り上げられている。そしてルーミング・イン・アレインジメントに就てはエール大学の医学部はその最も熱心な唱導者となつてゐるものである。

ハーヴァド大学附屬

エールの次ぎには、ボストンでハーヴァド大学附屬のナーサリースクールを見た。ミス・ライドンという園長さんに案内して貰つてかつ色々説明をして貰つた。小さい場所に遊具が沢山置いてあるし、子供がかなりいるという印象である。保育についてはかなりはつきりした計画を樹てているようで、二才児には主として大小便の自律を、三才児には着脱衣、自己表現、施設などを大切にすること、及び創造性を、四才児には物事を自分で考える習慣、社会的規準への適應、他人への考慮幼稚園になつて五才児には、字を読むレディネスなどを、訓練するようになどという計画である。そして保育案で時間をきめて、その時間割に基いた保育が行われている。これらの点でこのナーサリースクールはかなり依然伝統的な方法によつてゐるものである。

アプデグラフ教授の見解

ボストンの次に、シカゴに行き、それからミネアポリス、その次にサンフランシスコと見て廻つたが、同じことを繰り返すようになる点もあるのだ、残りのうち、アイオア大学のナーサリースクールとミネソタ大学のナーサリースクールのことを、語ることにしよう。

アイオア大学はアメリカでも最も早く一九一七年に児童研究所を設立し、爾來四十年間に亘つて研究を継続している。ゲシュタルト心理学者クルト・レヴィンはその一統と共に、美事な研究成果をあげたところである。こういう問題は本文の範圍外に属するので、再び幼児教育の問題に帰るが、筆者は今迄視察してきた所で筆者の頭にこびりついてきたアメリカの幼児教育に関する幾つかの疑問を一括してぶちまけて見ようと思つた。アイオア大学の就学前児童教育の専門家アプデグラフ博士 (Dr. Ruth Updegraff) に面会すると、自分は端的にそれらの疑問を中心に質問した。筆者「今から十年か十五年前のナーサリースクール及び幼稚園教育は、所謂生活訓練を主な目的の一つとしたのに対して、現在の就学前教育は専らその趣きを変えているかに見える。それは何の理由によるものであろうか？ その哲学的また心理的理由は何であらうか？ アメリカの現在のナーサリースクールは、その訓練を放棄したかにさえ見えるが。」

ア博士「我々は現在の就学前教育に於て決して訓練を放棄したのではない。我々は今も以前の通り、幼児の教育について注意深いのである。ただ我々は何が子供に、例えば克己

心を与えるかということに就て、以前とは異つた考えをもつてゐる。克己心を教えるに就いて、以前とは異つた分野と面を考へてゐる。以前よりも進んだ考へで、これは臨床心理學の教える処から學んだものである。

子供達の動機(Ceas)は何であるか？ アメリカの文化では、嘗て我々は児童に対して奇妙な要求をしたものである。例えば子供は決められた時間通りに食事をし睡眠をした。それは児童が決めたものではなくて、大人が決めたものである。誕生後二カ年の間でも我々は赤ん坊に対して、驚くべき苛くきな要求をしたものである。非常にげん格な大小便の自律の訓練をしたり、急げきな離乳などをさせたものである。しかも親達はそれをもつて子供の利益になるものと思へてゐた。然し大便秘の自律の如きは、筋肉の充分な発達がなくしては、容易くできるものではない。その他こういう事情が幾つも存在してゐる。これでは我々は子供の躰と訓練について、今迄よりモット注意深くなり始めたのである。

誕生後六年間で、大体性格の型ができ上つてくる。子供達には、彼らが習い得るだけ教えよう。彼らが學び得るものに力を集中し、その限度を超えないようにしよう。無理な要求をして、能力以上のことをさせようとする

と、子供達の社会に対する適応に關連してフラストレーション(欲求不満)が生れるであろう。大体満六年位経つた時に、我々は子供達に対してはつきりした躰を要求しようとするのである。

二才—四才位の間に於ては、子供はなかにある蒸気を吐き出させる必要がある。即ちそれは安全弁の機能である。子供にはその安全弁を持たせていい。だから子供は喧し騒いでもいいし、実験的な話し方をしてもいいし、キタない遊びをしてもいい。それは安全弁的な価値を持つのである。また子供は粘土積木やその他のものをもつて創造的活動をなし得るのであるが、この創造的活動こそ子供の感情発達のために大なる価値を有つものである。三才—四才になれば、感情的うつ散のために、事物を与えて、積極的な—消極的、破壊的などに相對して使われている—活動をさせようとする。我々中流階級の文化に於ては、我々は進取性、侵略的行動に對して、それを処罰すべきものと思へてきた。子供達は他人を傷けることは許されない。然し彼らは物をこわすことはしていいであらう。我々は子供達を処罰しないで、彼の感情を受け入れてやるべきである。そして積極的な事物積極的活動をさせる事物を与へべきである」。

「ナーサリースクールにおける年令に就ては、我々は子供が二才半かそこいらになるまではやらない方がいいことを學んだ。それ以前に於ては、子供は家庭でもつて極めて安定感を持つてゐる必要がある。子供が家庭で安定感をもつた時に始めて、ナーサリースクールにゆく準備ができてゐると考へべきである。ただ母親が仿ひている場合は、ナーサリースクールの方が子供にとつて、より安定的な場所であるかも知れない。五才児が小学校に上ることについても、同じような問題がある。ある州では一九五二年以後は、五才児の就学を禁止する法律を制定したが、前述のような理由から肯けることである」

「ナーサリースクールの教師については、大体子供八人について一人位であるが、五才以下の子供については、子供の数の如何を問はずいつでも二人の大人がいることが必要であると思う。」

「ナーサリースクール及び幼稚園の教師の養成については、次のような項目について訓練を与える必要があると思う。」

- ① 性格発達
- ② 児童心理
- ③ 両親教育
- ④ 小学教育
- ⑤ 子供の身体の発達
- ⑥ 児童の榮養
- ⑦ 社会性の発達
- ⑧ 普通児の臨床心理的問題
- ⑨ 心理テスト(プロジェクト)

ストをふくむ) ⑩美術 ⑪カリキュラム

アイオアとミネソタ附属

アプデグラ教授の許を辞してから、アイオア大学附属のナーサリースクールを參觀した。このナーサリースクールも亦、エールのそのように、ゆうゆうと遊ばしてあつた。まだかなり寒かつたが大部分の子供は戸外の広々とした庭で遊んでいた。ここには極く少数の二才児がいた。そして教師の一人は大学院の男子の学生であつた。ミネソタ大学のナーサリースクールは、児童研究所の附属になつてゐる。ここはまた午前九時から午後三時までの長時間に亘つてこまかいプログラムに従つて保育をしている。どちらかと云えば伝統的な色彩の強いナーサリースクールであつた。

結 び

筆者はこれ以上參觀記をつけ加えようとは思わない。この辺りで見て廻つた印象を総括しようと思ふ。前述したように、幼児教育は筆者にとつて今度の視察旅行では、第二次的なものであつたがために、見学したナーサリースクールや幼稚園が偏つたことになつた。自

分が訪問した大学附属のものが多くなつて了つた。その意味から筆者の見たところをもつて、アメリカの幼児教育一般の印象であるなどとは決して云えるものではない。然しある意味では、大学附属であることのために進歩的なものが多かつたかも知れない。こういう条件に於て見たアメリカの幼児教育は、筆者が嘗て知つて見た幼児教育、及び第二回の渡米前に画いていた幼児教育とは大分趣を異にしてゐると云うことである。すくなくともそういう方向に向いつゝあるものが多いことを感じさせられた。ナーサリースクールは四才まで、幼稚園が五才児の保育であることは、本誌の読者には申上げる必要もないことと思うが、嘗て一才半位からさへの教育を考えたアメリカのナーサリースクールは今や大体三才からのものが大多数になつてきた。時々二才児を収容している所もあるが、そういう意味では日本の幼稚園児の年令と大体同じようになつてゐる。ナーサリースクールが低年令の者を切り捨てたことによつて、幼稚園とナーサリースクールの異う所が大ぶん無くなつてきている。もしありとすれば、幼稚園の小学校の学習へのレディネスの点であるが、それも見ていて一向に違わないような印象を受けた場合もある。

ナーサリースクールが、時にデイ・ナーサリイ即ち保育所と混同して用いられている場合があるようであるが、大学附属のものについては、はつきり保育所とは異つた存在となつてゐる。また保育所が幼稚園またはナーサリースクールのな教育を与えようとしている例を、一つあげて置いたが、結局よい保育所は、幼稚園及ナーサリースクールの教育面を取り入れることになつて自然であることとを一例にしよう。

この視察中筆者を最も驚かしたのは前述の如く、保育とくに躰に関する考え方が變つてきた、または變りつゝあるのではないかと云う点である。この点については更に前述したことを繰り返すことをしないが、その精神を要約すると、次のようなことになるのではないかと思う。

(一)教育が生活と一緒になるというジョン・デウィイの精神が、結局幼稚園及びナーサリースクールにまで拡大浸透してきたのである。幼児の生活をその儘にして、教師が横から不自然に手伝ふことなくして、子供達だけの世界で、教育が自然に行われることを期待してゐる。子供が、自由に遊び乍ら子供の世界の中で、人に接し、人を取扱ひ、自分の感情を

幼児の躾と道徳教育

吉田昇

(一)

昔の教育ではよく道徳のことがいわれたが、新しい教育では道徳を軽視するので、子供の態度が悪くなつたという非難をよく耳にする。

この考え方は、教育の側に反省を求めるものをもつてけると同時に、父兄の側にも理解の十分でないものがあることを推測させる。

新しい教育は、新しい社会に応ずるために、考え出されたものである。新しい社会は、新しいモラルを求めている。だから、新しい教育が道徳という

ものをぬきにして考えられる筈はないのである。

しかし、これからの社会に必要なモラルは、権威に対する盲目的な服従を中核とするものではあり得ない。民主主義というものは、すべての人々が自主的な立場で互に協力してゆく関係を基本としている。

このようなモラルは、民主主義という言葉を繰返すだけでは出来るものではなく、実際の行為となつて現われるものでなければならぬ。具体的な行為として、定着しなければ、どんな言葉を覚えても、モラルにはならないのである。

だが、現在の状況では、成人の社会において民主主義は、言葉として語られるだけで、具体的な生活の型となつていない。

一つの例を挙げると、私達は昨年、日本教育学会の課題研究として、義務教育終了時の基礎学力を調査した。そのとき基礎学力の中に、数学とか、社会科とか教科別の学力調査のほかに、社会的態度の調査を加えることにした。それは正しい社会的態度をもつことが、教科の能力に劣らず、義務教育にとつて重要な課題だと考えたためである。

ところが、この社会的態度の調査を行つて見て、他の調査と非常に異つた結果が見出された。それは、他の学科のテストでは、たとえ正答率が低い場合でも、誤答の中のあるものが飛びぬけて多いことはほとんどなかつた。

それであるのに、この社会的態度のテストでは、民主的な態度をいくつかの具体的問題について質問したところ、或る傾向の問題に限つて、テストを製作するときに予測した答とは違つた別の選択肢の方が圧倒的に多いことが起つて来た。

どんな傾向の問題のときに、この現象が起るかという、自分の意見をはつきり言うとか、悪い友人をできるだけよい方に導いて行くといった性質の問題である。これらの問題のときに、自分の意見を強調して恨まれては損だから早く諦めるとか、余りよくない友人とはつき合わないようにするとかいふ答が選ばれる。

民主的な観念を尋ねるテストが、この結果であるから、実際上の行為となるものとつと強度にこの傾向が現われると思わ

れる。しかし、民主的なモラルとしては議論が決定するまでは自分の考えを主張することや、たとえ考えの異なる仲間のもでも自分達のグループとして、可能な範囲で協力してゆくことは、欠くべからざる重要な要素といわなければならぬ。

民主主義がわが国の教育の根本方針とされて、数年間の教育を受けた中学校の最高学年のものが、このような反応を示していることは、成人の社会において古いモラルが強いついていふことを推測させるものであり教育において、新しいモラルをつくりあげることがいかに困難であるかを物語っている。

この困難な仕事について、学校が無關心にいられるはずはない。幼児教育にしても、幼年期が道徳教育の基礎をつくるものである以上、これを無視してはられない。

それ故、新しい教育を行う場合に、幼児教育だからといつて道徳を軽視するよるなことがあつたとすれば、それは教育

を行う者の側が反省しなければならぬことである。

(二)

幼児教育において道徳的な面に重要であるとした場合、その内容がどのようなものになるかについて意見が分れて来る。

昔の社会においては躾ということが一番大切だと考えられていた。この考え方は身分社会の頃から続いている。

静的社会と呼ばれる身分社会では、すべてのものがはつきりした上下関係の秩序をもつていた。先生や両親に対してはどのように挨拶すべきか、目上の人に対してはどのように振舞うべきかというものがきまつて居り、それがいつまでも続くように考えられていた。

事実、社会そのものに変化が少かつたからこの出来上つた型は、一生の間通用し得るものであつた。それ故、幼児の頃からその意味を、幼児が理解しないでも行為の型を仕込んで置けば、後々までも役立つと考えられていた。

頭暈の上を歩くときにどのようにすべきか、敬語はどのように使うかというようなことまで、幼児が身につけるべき躰と考えられていた。

理解が出来ないのに、その行為を覚えさせるためには、賞罰という方法をとらなければならぬ。正しい型に合った行為をした場合にこれを賞し、その型にはずれたときに罰するという方法が行われて来たのである。

昔風の考え方もつものは、道徳教育という、すぐこの躰を思い浮べる。道徳教育を盛にすることは、賞罰による躰を嚴重にすることだと考えている。

しかし、このような立場だけで幼児の道徳教育を要望するのであれば、これを要望する者の側にも、社会の変化ということについても少し深く考えることを求めなければならぬ。

現代の社会は、静的な社会ではなく、動的な社会と呼ばれている。動的な社会は身分階級の束縛から脱却した社会である。動的な社会は、既に述べたように上

下関係ではなく、平等なもの協力を中心とする社会である。それ故、躰にするにしても、その内容は昔の社会とは大いに異つたものでなければならぬ。

親や世間一般が、幼児に長上への服従の態度だけを求め、仲間のものとの協力や、平等の態度をつくることを無視するならば、それは新しい社会にとつて好ましいことはいえない。

更に、重要なことは、動的な社会が不断に変化しつゝある社会であるということに関係している。秩序が動かし難く定まつている社会では、意味がわからないでも、一定の行為の仕方を仕込まれることが役に立つが、変化の激しい社会では意味がわからないで、末梢的な型だけ知つていゝのでは役に立たない。

人と人との接触についてでも、極めて多様なものとなつて来るので、その一つ一つについて細かな型を教えて行くことは不可能である。生活様式の変化によつて子供のときに教えた型が、大人の時になると役に立たなくなることも起り得る。

そのため、現代社会では、モラルの教育についても、躰よりも、洞察を重視するようになつて来る。洞察によつて、行為の意味がわかつていれば、新しい事情が生じて、容易にその状況に應ずる行動がとられる。このような、転移し得るモラルの学習が、現代社会では求められている。

洞察による学習は、学習者の情緒が安定しているときに、一番出来易いのであるから、個人的な權威によつて、学習者の自主的な判断を否定する方法は、なるべく避けねばならないと考へられている。個人的な立場からの賞罰によつて躰をした場合、児童は賞を得たり罰を避ける手段として、その行為の仕方を覚えるだけなので、教師がついていゝときだけ、その行為を行い、自由な環境に置かれた場合、モラルの拠りどころを失つてしまふ。

その上、賞罰による不安定を意識するので、すぐに、先生の顔色を窺うようなことになつて、ますますことがら自体の意味を見失うようになる。

それ故、新しい教育では、モラルを与えるにしても、その内容は民主的な社会にふさわしいものであり、その与え方は個人的な権威によるよりも、一般的な原則を主にするものでなければならぬ。

この点は、幼児の道徳教育を要望する場合、父兄もはつきりと認めて置く必要がある。

(三)

道徳教育が洞察を主として行われるとすると、幼児の場合何が内容となるか、問題となつて来る。幼児にとつて初めから複雑な道徳の意味を理解するのは、極めて困難なことといわなければならぬからである。

そのため、幼児の道徳教育は、どうしても自発的な道徳的な判断をさせることよりも、上から与える躰を中心とすることから出発しなければならぬ。だが、躰だけでは、道徳教育という名に価するものではない。たとえ躰を通じて、道徳教育を行うにしても、その躰が将来、人間関係についての正しい洞察を与えるよ

うな性質をもつたものでなければならぬ。

躰を通じて道徳教育を行うことができるといふのは、次のような心理的な発達から考へて見ることも大切である。

子供が、道徳上の善悪を理解する場合先ず悪についての意識が先に立つといわれている。実際の調査にも、小学校の低学年までは、悪について意識することが圧倒的に多く、善について意識することは、それ以後の段階で次第に増加して来る。

この悪の意識は、自然に発生したものであるといふよりは、親や先生が、一定の場合に叱ることが基礎になつて発生して来る小学校の低学年で、どういふことが悪いかといふことを書かせ、その理由をきいて見ると、誰か叱るといふことが一番多くなつてゐる。

このことから考へると、幼児の頃から叱られていたこと、或は、それをしないことが賞められることが、先ず道徳意識の手がかりをつくり、それによつて、一般的な知能に進むにつれて、その背後に

ある法則的なものを探りあて、遂に品についての概念を得るといふ発達の順序が考へられて来る。この最後の段階に達して、本当の道徳というものが身についたものになる。

それ故、幼児期における躰は、それ自身は十分な意味で道徳教育ではないけれども、道徳教育の基礎をつくることを目標としなければならぬ。

新しい社会にふさわしい幼児教育では躰をそれ自身を完成された型として考へるのではなく、将来の洞察を容易にする素材として考へることが最も強く望まれることとなる。それでは、完成された型として躰を与えるのと、洞察の基礎として躰を行うのと、どこに違いが生ずるのであるか。

それは、実際的には余りに細かなことを教へると、大綱だけを一貫して押えてゆくといふことゝの違になるのである。

完成された型として躰を与えようとするときには、細部まで、その型に従うことが要求される。これに反して洞察の基

礎として、躾をするときには、幼児にとつて最も理解し易いもので、しかも社会にとつて最も大切なものをいくつか選んで、それだけを絶えず一貫して行つてゆく仕方をとらなければならぬ。

例えば、公平という考え方は、幼児にとつても、最も理解し易い人間関係であり、かつ、社会的に考えても極めて重要な態度である。この態度は、特に多数のものが集まつている幼稚園において、最もよく躾ることができる性質のものである。遊具を使うのにかわり番に使うとか、ものを分けるときに平等に分けるとかいうことである。

このことを常に意識して、公平なこと平等なことがよいことで、それに反することが悪いことであるという生活を行わせると、それがかなり早い機会に、人間関係の正しい洞察に移行する。こういったことが幼児の道徳教育なのである。

或いは、ひとの邪魔にならないということも大切なことであるが、それを具体的な行為を通じて会得させることも幼稚園の教育にとつて重要である。先生が話

をしているときさわいでいる者がいる。それが邪魔になるときは皆から離れて遠くの方に行くように指示するといった仕方がそれである。

この場合、昔の躾のやり方だと、お行儀ということをやかましく言う。だが、お行儀をよくすることが何故大切であるかは、幼児達には、ほとんど理解されない。そしてこれを強調することは、たゞ先生の言うことには服従しなければならぬという意識を与えるだけになつてしまふ。

そうではなくて、細かい点は言わずにひとの邪魔になるという点だけで押えてゆく。ひとの邪魔にならないようにしさえすれば賞められる。このような仕方にもつてゆけば、子供達の安定感も、損われることが少いし、それについて子供達が洞察を得ることも早くなる。

先生が自己の権威についての侵害として、それを怒るのではなく、民主的な社会の原則を子供るときから育ててゆくという気持で、こういった躾を行い、その仕方も叱ることよりは、よい点を賞める

ことや、悪いことを悪いとして意識させることに重点をもたせなければならぬ。

道徳教育というのは、このような性格をもつているので、その中にはソリダイクのいう効果の法則のような学習の要素と、ゲシュタルト派の主張する洞察的な要素とがともに含まれて来る。この二つの立場のいずれか一方をとつて、他方を無視するということは、幼児の道徳教育を不当に変形することになる。

この意味で、躾と道徳教育は、相異つた面と、同じ面との二つをもつている。躾を完成した型として考えないで、児童が、それをもとにして洞察を展開する基礎と考えることと、その内容に民主的な社会の基本原則を考へるといふことが、これからの幼児教育で最も大切なこととすべしである。

保育所の

家庭化的運営

鈴木豊藏

「家庭は、文明の所産の中、最も高い、また最も美しいものである。而も精神と性格の基礎を形づくるものである。」といわれるが、「健全な家庭」これ程子供の健やかな育成に必要な欠くことの出来ないものはない。

家庭がノーマルでなく、子供が家庭に恵まれない、保育に欠くところがある場合、その欠陥を補うために、保育所その他の施設が必要になつて来る。だから保育所その他の施設は、家庭に代る場所であり、ノーマルな家庭を見做つたものでなければならぬ。少くとも、それに近い設備や運営の方法をとられることが望ましい。この観点から、現在の保育所やその他の施設をながめると、その設備や運営の面において、可なりの距離があるよう

しいことではない。

一、保育所の在り方

さて、保育所の在り方はどうで

なければならぬか。保育所の保育室は、保育の基礎的単位であつて、極めて重要な役割をもつてゐる。保育室は、一人の保母を中心とする一つの家庭、しかもノーマルな家庭に近いものであつて欲しい。そして他の保母を中心とするいくつかの保育室は、近所隣り即ち隣組のようなものに考えたい。だから保育室は、保母一人に小さくとも一室が与えられ次のようなものであることが望ましい。

第一に、識見の高い人格の立派な、そして子供から母と慕われる性格をもつた保母を中心とし、愛によつて睦み合う家族であり家庭でありたい。嬉しいこと悲しいことが何があつても飛込んで来て報告し、喜憂を分か合ふ家庭でありたい。何等の不安もなく、安定感をもつた落着きのある生活の本拠でありたい。畳敷きの保育室もあるが、却つてその方が日

本の家庭的雰囲気をかもし出すようにも思われる。愛によつて包まれ、親しい気分になつていけば、時には保母を先生といわず、うっかり「お母さん！」と呼ぶようなことがあるのがよいのではないか。

保育室の名称も——時には番号までもつけているが——花の名か保母さんの名でもというならば、何々保育所という名称も、何とか子供の親しみやすい、魅力を感じるような名称に改め得ないものだろうか。今学校では受持ち先生の苗字をとつて、誰々ホームルームといつてゐるが、保育室は正にホームルームである。

ホームルームである保育室は、小さいで時計もあれば、花瓶には花も匂つてゐる。子供の作品も貼られ、清楚な飾りもあり、潤いのある温かい雰囲気にも包まれてゐる。子供等は此のホームでなごやかに歌いお話もきき、いわゆる自由遊びがくりげられる。給食もいたゞき、安心して午睡もする。大きい室で大勢一緒に寝ると違つて、早くしかも深い眠りにつくことが出来る。

子供の誕生日には、家族同志色々の工夫をして、その子供の前途を祝つてあげ、お祝いとして、全部の子供等に、だんごか煎餅でも

与えられたら此の上ない。

祝祭日には、ホームの入口に国旗を掲げ、七夕、クリスマス等の行事には、小さくとも自分等のものを作つて飾りたいものである。もつとも隣組一同で大きなものを作つて飾ることも結構なことである。かような保育所の運営によつて、豊かな心ののびのびした気分の子供に育てることが出来るであらう。

くり返して云うが、保母一人に対し、小さくとも一室を与えることは、是非必要だということ強く提唱したい。同時に保育室毎に保母の自由裁量で使い得る——勿論子供のために生かして——経費を予算に計上しておいていただきたい。これは設立者乃至所長さん方に、再考を煩わしたい点である。

二、保育の在り方

保育のことは、全面的に保母の人格力量に依存せざるを得ない。だから保母は第一に、立派な母代りとなり得るために、人格識見を高める修養を怠つてはならない。

次に「その子を知ること母に如かず」と云われるように、母代りとなり、全責任をもつて保育にあたるのであるから、子供をどの方面からもよく知つて居ることが大切である。子供の家族関係は勿論、人的物的環境の調査

子供の誕生前から、誕生後の経歴境遇の変化等の調査、子供の個性特に知能、性格、性癖、長所短所等の調査、身体的方面でも、身長、体重、胸圍などは勿論、発育の良否、既往の疾病、現在の健康状態等、各方面の角度から調べて、よく子供一人々々を讀んでおくことが大切である。特に問題児においては、キースワーカーとしての務めも果さなければならぬ。それを一々記録にとめておく許りではなく、その後の保育経過を追加記録して行くようにする。単に記録するだけではなく、その理解の下に、その都度その場合に應じて、應機応変適切な保育が出来るようになっていなければならぬ。若し子供が休んだら、直ぐ家庭訪問もするし、子供が怪我をしたり、病氣になつたら、母の気持ちと責任とにおいて、適当な処置をとらなければならぬ。すべての子供に対して、平等公平に愛し乍ら、打ちくつろいだ間に、たしなめもし、暗示も与え、注意もしてやる。かくて、保母の全人格による温かい感化指導が行われる時、子供は心身共に健やかに成長発達を遂げるのである。

これは某乳児院の話である。乳児院としては、現代科学の示す合理的な方法で、授乳その他の保育をして居るのであるが、子供はど

うも肥らない。ところがその子供を里親に託して、家庭で保育したら、まるまると肥つたという。普通の家庭では、子供の科学的保育から見ると、実にはらはらするようなことも随分多いことであらう。而も子供がまるまる肥るといふ事実について、何か大きな示唆を与えられるような気がする。家庭には、科学や理窟を超えた非合理性が多分にあり、それが子供を健やかに育てる大きな力となつて居ると思われる。吾々保育に当るものに対し、大きな暗示を与えるものとして、深く考えさせられるものがある。そこが保育所の家庭化を叫びたい所以である。

三、施設運営の在り方

保育所の施設としては、大きい規模のものより、小さい規模のものが理想的だといわれる。その理由の一つは、前に述べた趣旨に基づくものではないか。保育所としては、大工場における大量生産的なものは、自然家庭化の運営に遠ざかりやすい。

此の間保母学院の生徒を連れて某地方の施設見学の旅に出たが、或る所に宿泊した時、小さい室は満員だからといつて、大広間に通され、全員枕を並べて寝についた。生徒たちはそこに何かの満たされない感じを持つたら

しい。恐らく気の合つた同志数人ずつ、各室に分れて静かに休んで、疲れを癒したかつたのであろう。そこに吾々は、何か考えさせられるものがあるように思われる。保育所によつては、定まつた所謂自分らのホームルームがなく、大工場のように、大きな一つか二つの室で、朝から晩まで大勢の子供を一緒に、幾人かの保育の共同指導によつて、一斉に動かし、一斉に遊ばして居るところがある。それでは、家庭の生活から遠ざかることになり子供等は安住するところもなく、生活の中心点もなく、精神的に満たされない所が多いことであらう。

殊に養護施設や精神薄弱児施設、教護院などの収容施設は、全然家庭から離れて居る子供達であるから、特に家庭に代る施設でなければならぬ。乳児院などで、大きな室に沢山のベットを並べ、一方から順々定まつた通り授乳し、おむつの取替えをするというだけでは、子供等には満たされないところが多いことと思ふ。或る養護施設では、大きな寮に代るに、住宅に做つた小さな独立家屋をいくつも建て、住宅毎に、保母中心の家庭的雰圍氣を作つて、その中に生活をさせ、周囲の空地をその家の菜園として耕して居る所がある。このやり方に大きな暗示を受けざるを得ない

保育所の場合も、保育室が住宅式に出来たら申分ないと思ふ。保育所の施設の大小は、そのよし悪しを決定する条件ではなく、その運営が家庭化されているかどうかによつて、定まるものと考える。尤も私の主張する、ホームルームとしての保育室の運営も、子供等のすべの生活を、そのホームルームだけに限るといふのではない。大人の社会にも、町内運動会や講演会、音楽会などが催されるように、保育所の隣組の子供等が一緒になつて踊り歌い、紙芝居を見、遠足にも出かけるというようなことがあつてもよいし、それは広く社会性を養う意味において、却つて望ましいことではあるまいか。要は保育に欠ける子供達を、ノーマルな家庭に近い保育所で保育し、各家庭の保育で欠けるところを補つて、円満な人格形成の基礎を養いたいというに他ならない。

(福島県立高等保母学院)

(13頁から)

支配することを学ぶことを期待している。

(二) いわゆる知的活動以外の、社会生活、感情生活、自分自身についての考、他人に対する反応の方法について学ぶことを、最も基本的なものと考えようになつたのではないであらうか。少くとも今迄以上にうんと重要視するようになっていふと思う。遊戯や歌やお話などよりも、右のような点について学ぶことを最重要視するからこそ、歌や話を特に定期的にカリキュラムの中に入れることをしなくならなければならない。

(三) 児童の発達の条件を今迄以上に、考慮するようになつていふ。それ故に、今迄行われていた躰の方法を棄てたり年令的に繰り下げたりしてゐるのである。そして臨床心理学が強調するようになつた「幼児期に於ける安全感又は安定感こそ児童の将来の精神的健康を支配する可能性が多い」という考え方を、狭く幼児教育の多くの面に於て採択するようになったものである。

(筆者日本女子大学教授)

自由遊びの性格

宮内孝

幼稚園の教育において、自由遊びは過去においてもまた現在においても重視され、特に保育要領においては自由遊びをその教育の主流として居る。私も、自由遊び

を以つて、幼稚園教育における最も基本的なものであり、すべてをおおつて居るものであると考へる。それは、幼稚園がこどもの生活の場であり、その学習活動が生活の中で、生活を通し、或は生活との関連においてなされなければならぬ。即ち生活教育の立場を取つて居るからである。そして、こどもの「生活の実質と自然」とが、幼児に於いて最もよく行わるゝものは遊戯である」(教育科学、倉橋惣三、就学前の教育、43頁)ならば、また、「遊びにおいては、個人は全く自からの意志においてこれらの活動に従事し、かつその活動は少しも強制されることがない」のであり、「とくに子供の場合には、これらの活動を制約する大人の力の存しない活動が遊びであ

る」(遊びの指導、守屋光雄、遊びの心理、11頁)ならば、自由な遊びをもつて、幼稚園における教育の基本的なものとするのは当然の帰結であるからである。

しかし、実際こどもを教育している現場の各幼稚園においては、決して簡単に割り切れるものではなく、多くの問題を持つて居ると考へられる。即ち、自由遊びについての問題として、例えば、(1)、教育課程や指導計画をたてる場合どう取扱うか。(2)、これと連関してその指導をどうすべきか。(3)、社会的要求(主として父兄の)に對して、その調整を如何にすべきか即ち社会的要求は自由遊びに對してよりは、所謂「おしごと」に對して強い。(4)、実際の活動において、社会人(或は教師自身でさえも)は過去の小学校における休み時間か課外活動のような錯覚を起し勝たないか。等々挙げればかぞえきれないと思ふ。

このような自由遊びについての混乱や問題はすべて自由遊びの性格がはつきりして居らないことから起つて来て居ると考えられる。

幼稚園に於ける自由遊びの語は古くから用いられて居るので、その時代によつて考え方も變つて居り、また、人によつてもその意味するところが違ふのが現状であるといえよう。従つて、自由遊びとは何かという出問を出したならば、十人十色の解答になると思われる。

故に、こゝでは、保育要領に示された自由遊びの考え方を手がかりとして、自分の考えを述べて見たいと思ふ。

保育要領における自由遊びの考え方は、

①、自由遊びとは「子供たちの自発的な意志にもとずいて、自由にいろいろの遊具や、おもちゃを使つて生き生きと遊ばれる遊び」(保育要領58頁)であること。

②、それは保育内容であつて、音楽、お話、絵画、製作、自然観察など、同列にならぶものであること。

③、集団遊び(ハンカチ落とし、スキップ鬼のような)或は集団的に行われる遊びと対比されるものであること。(同、42及59頁)

④、音楽・お話・リズム・観察・絵画・粘土・紙細工等は幼児の自由な選択にまかせて行つても自由遊びとは

云わない。(註)

⑤、一日の生活の主体となるものである。

しかし「集団的に行われる次の遊びや、食事、昼寝等によつて中断される」ものであること。(同、59頁)

⑥、指導は「十分な設備を整えておく」とこと「幼児の個性をよく知り、各自に必要な指導を与える」こと。

(同、41頁)また「食後の自由遊びは激しい運動を控え、帰りを考慮して遊びを発表させる」(同、59頁)

⑦、自由遊びにおいては、教師は観察に重点をおくこと。(同、58〜60頁、)

等にまとめることができよう。

註。こゝの文章は非常にあいまいである。これを決定

する鍵は自由遊びの定義における遊具の内容であると考えられる。然し、これもまた甚だあいまいである。遊具の項で「運動に使う器具・おもちゃその他幼児がその遊びに使うものすべてを遊具という」といふ具体的なものにはふれず、途中からその他の設備といつて、設備という語に置きかえられ、設備・教材・教具・園具すべてのもの(勿論遊具と考えられるもの)を挙げておる。即ちジャンブルジム、ピアノ、絵本、クレオン、おもちゃ、等が同列にならんでいる。従つて、こゝか

らは決定されない故に、保育内容の項の別け方から判断して、こゝではこのように判断した。

以上のことから保育要領における自由遊びの概念がはつきりした事と思う。さて、こゝで先ず問題になるのは自由遊びの「自由」に対する考え方である。私は、保育要領の自由遊びを支えている基本的な立場は個人主義的自由主義的な自由の考え方であると思う。(前掲、①、③、⑤、⑥、項参照)そして、それは、小川正道氏が批判して居る通り、たしかに「古い一時代前」の考え方であることは云うまでもないであらう。(註、1)

「人類の運命を掌る見えざる手の指導によつて」(アダム・スミス)すべてがよく行くと考える個人主義的自由放任の考え方は、現代においては通用しないあまりにも安易な考え方である。従つて、このような考え方に、こどもの父兄が満足せず、また教師自身も納得できず、そして父兄との関係において困ることは明かである。

それは、個性を尊重し、こどもの自発活動を重んずるけれども、あくまでも社会的存在としての具体的人間の立場に立つていなければならぬ。ここでは、如何に個人の興味・欲求に基いた活動であろうとも、それが社会的必要と結びついたものでなければならぬ。云いかえれば個人的必要と社会的必要とが同時に満たされるものでなければならぬ。(註、2)

そして、このことはその度合いは異るとしても年令や経験の多少を超えたものである。なるほど、こどもは自己中心的存在であるけれども、こどもはこどもなりに社会生活を営んで居るのであり、将来、社会の一員として生長して行くのである。故に自由遊びは決して抽象的個人としてのこどもの、その時々なきまぐれの興味や欲求に基づいて遊ばれる遊びではなく、こどもの真の興味、真の欲求、云いかえれば、こどもの必要——従つてそれは同時に社会的必要をも満たすものである——にもとずいて、自由に選択し、自由に遊ばれる遊びでなければならぬということができよう。

註、①、しかし他方わたしは、社会的幼児観および幼児における自由ならびに個性の真義の立場から……保育要領は、やゝ古い一時代前の自由主義を基調として居る……(幼稚園教育、小川正道、幼稚園教育論、96頁)

註、②、私は個人と社会とは決して矛盾対立するものではないと考える。矛盾対立する現象が現れたり、意識されたりすることは否定しないが、この両者はその根源においては絶対的に矛盾対立するものではないという見解をもつている。

次には自由遊びの「遊び」に対する考え方である。保

育要領においては、自由遊びを保育内容の一項として挙げて居り、他の項目との関係もあきらかにしなければまた遊びについても明らかにしていない。従来、幼稚園においては「お遊び」という言葉と「お仕事」という言葉があつた事は周知の通りである。保育要領においてはこのことについては実にあいまいな事として居る。故に従来からの教師や、父兄は、遊びに対して仕事を当然のこととして対立させて考へる。こゝにも、自由遊びに対する考へ方なり、取扱いに混乱を来す原因がある。

しかし、一体、こどもの世界で遊びと仕事とはつきりと区別できるであろうか。もともと遊びと仕事とを區別するのは「活動の類型ではなくて、それらの活動に対する個人の態度である」(遊びの指導、守屋光雄、遊びの心理、10頁)のであるから、教師が「さあ自由遊びの時間ですから自由に遊びなさい」と命令して遊ばせた自由遊びは、こどもにとつては仕事である場合もあるし、また、教師は仕事を課したつもりでも、こどもにとつては反対に遊びである場合もある。遊びと仕事とを別けるのは、大人の立場から大人の眼をもつて大人の範疇でこどもを見ていると云わなければならない。

次に、こどもの遊びの性格についてであるが、それは、遊びと仕事との未分化の状態であるということができよう。それは、やがて遊びと仕事とへ分化して行くのである

うその分化の萌しを識した未分化の状態であると考へられる。従つて遊びの面から見れば、こどもの生活全体が遊びであり、仕事の面から見ればすべて仕事であるとも云えよう。従つて、一言にして云えば、こどもの生活全体が遊びである——勿論、大人の立場から見ても、また普通云う遊びとは異なる意味において——と云うことができる。

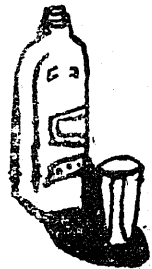
第三に、最も根本的な問題としては、幼稚園における自由遊びには二つの意義があるということである。一つは、遊びそのものを指す場合である。即ちこどもが自由に遊んでいるその状態そのものを指して云うのである。他は、自由な遊びによつていろいろの経験を得て行く形式を指して云うのである。即ち、学習形態を意味する。

保育要領においては前者の意味にのみ固執して居るので色々の問題を起して居るのである。(前掲各項参照) こどもの学習形態にはいろいろあるけれども、こどもの身体的、知的、情緒的、社会的養達の段階から云つて自由な遊びの形態において、いろいろの生活経験を心得て行く、即ち学習して行くことが最も適して居ると見るのである。こどもは自由な遊びによつて、望ましい習慣や態度、知識や技能などを身につけて行くのである。従つて、自由遊びは自由学習といふかえることができるのである。

子どもの怪我の

応急手当

平井信義



子供の怪我は日にまことに多いものであります。夜、寝巻に着替へさせようと裸にしてみると、あざや、すり傷が手足に沢山できているのに驚くことがあります。殊に活動のはげしい子供にいちじるしいことです。

大きい怪我で生命を奪われる子供は、一才、二才と年を追うにつれて、次第に多くなります。そして五才では死亡の第一の原因となります。乗物にひかれた、川にはまつた、高みから落ちた、やけど——こうして一才、五才の幼児は約七千人も死んでいます。

子供は自分から災害を予防する力は非常に少い。ですから、子供と共に暮し、子供の世話をしている者は、予防に万全の策を立てなければなりません。

今日は、家庭内又は幼稚園で起る小さな事故を主としてかんたんな処置をお話ししましょう。

(1) 刺傷・切傷

傷の中にトゲや砂などが入つているときは、それを完全に出さないと化膿します。化膿するとあとが面倒です。焼くかアルコールで消毒した針で傷口をひろくしてつまみ出すか掻き出すのがよいでしょう。

傷口が小さくて奥の深い傷は、目にはごみが見えなくとも、ばい菌が入つていることが多いから、傷口をひろくしておくことは大切です。

傷口がひろくなつたら、こんどは消毒です。先ずオキシフルで泡立たせて、中の細かいごみを出しましょう。あとは、赤チンキを塗って消毒したガーゼを当て縛帯するか、ばんそう膏でとめておけばよいのです。

但し傷口はばい菌が繁殖し易いから、折角消毒しても、あとをよごすことのない様、水につけない様にしておかないといけません。傷口を外界と遮断するのです。

傷口をなめるのは、口の中に沢山のばい菌がいることを思えば、よいか悪いか答えはかんたんです。たもとくそについても御判断願

います。

(2) 打撲傷と血腫

あざ、こぶの類です。之は外からの力が働いたため、皮ふの内側の血管が破れ血が組織の方に溢れ出たが、外側の皮ふが破れないので外に出ることが出来ないでいる姿です。

あふれ出た血液を早く吸収させればよいのです。ふつう湿布をいたします。湿布の液は硼酸水、リパノール水など何でも結構です。冷湿布にします。

こぶなどは打つた日より次の日あたりにはれがひどいことがあります。又、おでこのこぶはその後まぶたの方に下つて来てむくんだ様な顔になることは知つていきましょう。心配はいりません。

但し、打つた場処が次々とあざになる子供が時にありますが、之は血液の病気がありますから、医者について検査してもらつておこなうことをすゝめましょう。

(3) 捻挫・脱臼・骨折

捻挫は外力によつて関節についている筋の一部が裂けることです。足の関節に多いことは、すでに「ふみちがし」として経験されているでしょう。その他肘も強くねじられて捻挫が起ります。内出血をしたり腫れることも多くあります。

何よりも安静が大切です。そして冷湿布を行います。あまり痛みが強いとき、長くつゞくときは骨にひびが入つていることがありますから、レントゲンの必要があります。

長く関節を使わないと動く範圍が少く固つてしまいますから、痛みが少くなつたら積極的に動かすことをしましょう。その時期は医

者にきくことが大切です。

脱臼は、関節で接している二つの骨がはずれて喰いちがうことであります。肩や肘の他、あまり大きな口をあいて笑つと顎がはずれます。

一度はずれると習慣になつてしまうものもあります。折角先生がお手を引いてかけ出そうと引張るとすぐに肘がはずれてしまう子供がそれです。あくび(欠伸)をしただけで顎がはずれる先生もおいでです。

はずれたものは、少しでも動かすと大変痛みます。とてもさわれません。放つておくと腫れて来たりします。

整復しなければなりません。が専門家に頼みましょう。整復の要はずれるときに通つた道を又戻すのです。引くとき相当にいたいものです。

脱臼も骨折も、その場処を出来るだけ動かさない様にして専門家を訪ふことです。動かさない様にするには支えが必要です。副木があればよいが、杖でも板でもよく、それをあて、傷の上下二つの関節がうごかない様にしぼります。

(4) 火傷「やけど」

火傷で不幸な思いをしている子供は実に多いのは悲しいことです。一にも親の不注意、二にも親の不注意から起ります。

すぐに油をつけましょう。お湯のか、つた場所に衣服がついていたら、すぐに引裂きましょう。その際、皮ふをこすつたり水泡をつぶし取ることがない様、油は亜麻仁油、硼酸軟膏、オレーフ油、肝油——何でもよいが、タンニン酸の入つた軟膏は非常に効果があります。梅干を厚く塗つてその上に冷湿布する民間療法もあります。

水疱があれば、その表面に消毒薬を塗つて消毒した針で刺しますと、水が出てしほみます。その上に皮をいたぬようにして軟膏をはればよいのです。

やけどにばい菌がついたら、それこそ大変です。破れたりむけたりした傷にはよくよく消毒に注意いたしましょう。

然し転ばぬ先の杖——やけどはさせないことです。私の経験した火傷の場面を並べて御参考供にしましょう。ストーブの側で遊んでいて、上にのつた薬罐をひっくり返した。洗面器に入れた熱湯の中にはまり込んだ。廊下の曲り角で薬罐をもつた人とぶつかった。いろりに落ちた。あつい風呂に足をふみ入れた——活動がさかんで落付きないう子供たちが最も陥入り易い災害です。

(5) 墜落

火傷と同様に多い事件です。もの干台から落ちた。二階から転り落ちた、木の枝が折れた——ということ年で年四・五百名の子供が死んでいます。私共の病院でも、しよつ中かつき込まれます。脳出血でもあるようなら、安静第一、騒いだりゆり動かしてはなりません。意識がありません。耳や鼻から出血していれば極めて重体です。頭蓋底骨折といって、大切な脊すいや脳神経の出ている部分であるからです。

内臓に傷が出来ることがあります。之らは時間を追つて次第に症候を表わして来ます。吐いたりおなかを痛がつたりします。尿の検査などをしてみることもあります。

脳振盪——これも意識を失います。脳に一時血行の障碍が起るためと考えられています。頭を低くして静かにねかせ、からだを温かくつゝみ、からし泥をふくらはぎにはりつけるとよいでしょう。そ

の他は医師にまかせますが、呼吸がよくないときは人工呼吸を忘れてはなりません。

傷があれば、傷の手当をします。

(6) 貧血

今まで元気だつた子供が、立つている中に顔色が青くなり、気持が悪いといふ、遂にたおれるときは、脳貧血を考えるべきでしょう。

頭を低くして寝かせ、胸腹をきつくしめている部分はゆるめます。恐ろしい病気ではありません。アルコール飲料をのませるのもよいことです。間もなく恢復します。くせを持ち易いものです。

(7) 鼻血

子供を静かにねかせ、特に頭を高くします。鼻孔にはきれいな綿を小指の先程に丸めて深く入れます。そして鼻のつけ根を冷やすとよいでしょう。

又、椅子に坐らせ、小鼻から鼻の中隔に向けて指で強く圧迫させるのも一方法です。室がむしむししていたら、通風をよくすることも忘れぬよう。

(8) 耳にものが入つたとき

子供は小さな豆、卸などを耳に入れることがあります。又は虫が飛び込むことがあります。

そんなときピンセットなどで取らぬこと。豆などははじき入れる恐れがありますし、耳を傷付けます。先の曲つたものでそつとかき

出す様にしますが、医者にまかせた方が安全です。

虫などは油を流し込めば出て来ます。強い光（電灯）の方に耳の孔を向けるのも方法です。

(9) 鼻にもものを入れて取れないとき

先ず口をつぐんで自分で鼻からふき出させること。それで出なければ医者にまかせた方が安心です。取れそうな気がしていじつていゝる中に、鼻の粘膜を傷付けたら、次第にふやけて来てとり難くなります。

(10) 目にごみが入つたとき

決してこすつてはいけないことを言いきかせましょう。まぶたをひっくり返して、ごみをきれいな布でふきとります。目をひっくり返すことが困難なら矢張医者にいきましよう。涙とともに出て来ることもしばしばありますが、粘膜にくい込んで居ることもあります。外からこすると目のレンズに傷が付きまます。

(11) のどにもものがつかえたとき

口に入れていたもの（玩具、メタルなど）が奥にはまつたときはすぐに前屈みにして背中を平手で強くお打ちなさい。或いはかんじよりを鼻に入れてくさみをさせてみます。

小骨とかとげの類であれば、口をあけさせて外から見ればピンセットを使います。見えぬときは握り飯や芋類をのみ込ませるのがよいが、子供ではなかなか困難なことが多いから、つつかえて居る感じがあれば医者に見てもらいましよう。そのまゝにしておいて、さゝつた場処から化膿して大変なことになつた例があります。

異物が気管に落ち込んだら大変です。生命にかゝります。そのときは激しい咳が出るのでわかりますが、咳のあとけろりとしても危険です。耳鼻咽喉科の医者に見てもらいましよう。

(12) かまれたとき

犬や蛇にかまれたとき、恐ろしいのは毒やばい菌をからだにもらうことです。

犬で問題になるのは狂犬病ですが、これは咬まれた傷の様子ではわからないから、犬が狂犬かどうかをすぐに検査してもらうことです。といつて決るまで傷を放つておくのは悪いから、あやしいときは傷の部分より心臓に近いところをきつくしばり、傷口を絞つて出血させまます。そのあと千倍の昇汞水で洗い、一〇％苛性カリ液をぬつて腐蝕させまます。狂犬と決れば注射を開始しなくてはなりません。注射は十八日もかゝります。

蛇にかまれたら、傷口から毒を吸い出し、同じく心臓部に近い方をしばつて毒が全身に廻らぬ様にしまます。あとは医者にまかせて下さい。

× × ×

以上で応急処置についてお話しましたが、何よりも大切なことは落着きであります。突然に起つた事件が多いから、慌て、逆なことをしている場合としばしば見受けまます。急救処置が上手にいくかないかで、あとの経過がしばしば変つて来まますから、どうか心の落着きをもつて下さい。

（愛育会所員、お茶の水女子大学講師）

幼児の絵画製作の種類

— (2) —



副 島 ハ マ

砂 繪 (一・二圖)

砂繪は純然たる絵画とは云えないし、自由思想表現という点からの価値は少ないと思われるが非常に面白い絵画製作の一つです。皆さま御存じと思いますが、子供に広い経験をさせるという立場から取り上げて下さるようにならうと思つて書きます。

砂繪は、何分にも材料が、砂と糊ですから取扱いに注意致しませんと前後の始末が大へんな事になつて了います。新聞紙を下にひいてからするとか、砂をちやんとした箱なり、罐なりに入れるとか、上手に御指導なさつて下さい。

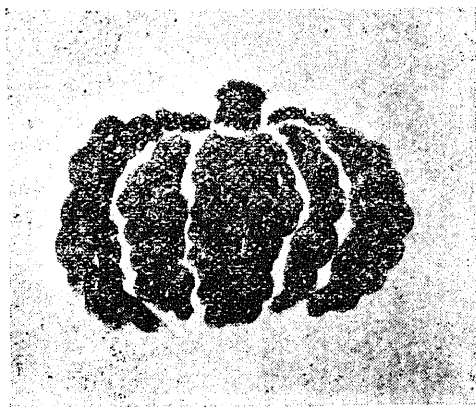
砂繪というのは、字の通り砂で絵をかくのですが、絵になつた砂を糊で固定しようと言う訳なのです。ですから、地面の上に、手から砂をこぼしながら画くような絵とは違つて糊で絵をかいて、その跡を砂でハッキリさせるという具合になります。

描き方の順序を申しますと、先ず最初にクレヨン画をかく時と同じ要領で糊で絵を描きその上に砂をふりかけ、その上を不用の紙でそつとおさえ、充分おさえたら、紙につかなかつた砂を払い落すのです。砂を荒い砂と細かい砂に分けたり、タマゴの殻を細かく砕い

たものを使つたり、青ノリの粉を用いたりしますと、色に変化ができて、感じが變つてまいります。

例えば、山を背景とした野原に兎がいる景色の場合、遠い山と近い山は、細かい砂と荒い砂で使い分け、手前の野原は、押し菜をもんでつくつた粉、又は青ノリの粉などを用いて、タマゴの殻を砕いた白い粉をふつてあらわすという具合に致します。糊づけの順序としては、充分乾かないうちに、横の方に糊をつける輪郭がくずれますから、野原だけ先

(第一圖)



(第二区)



総迎と云う額を作るのに、この要領で字の所を小豆、地を大豆で糊づけして効果をあげた経験がございますが、砂絵の要領は、色々に応用できると思います。一つのヒントを活かして色々と新しい製作を考えて下さいませ。

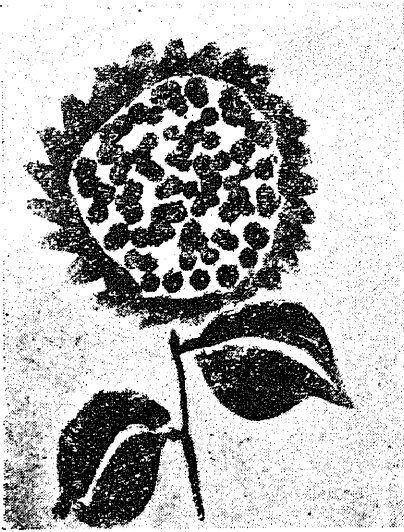
おがくず繪(三、四区)

おがくず繪は、製作

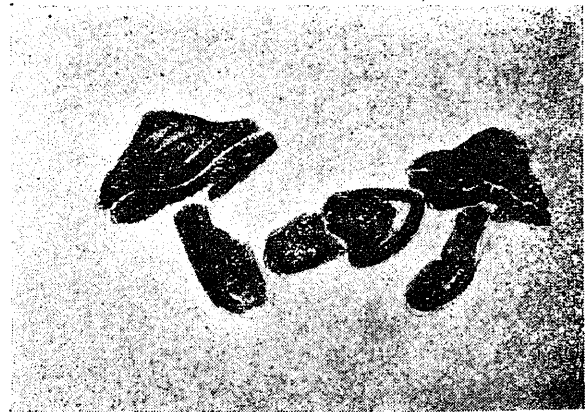
に糊をつけて緑の粉をふり、次には遠い山だけ糊をつけて細かい砂をふり、近い山を最後にするわけです。又、砂は糊をつけた所にだけしかつきませんから、糊のぬり残しのないように気をつけねばなりません。しかしこれを逆に利用して、陰影をつける工夫もできますが、幼児に、そのままでは要永するのは無理でしょう。

以前に何かの祝賀会するとき

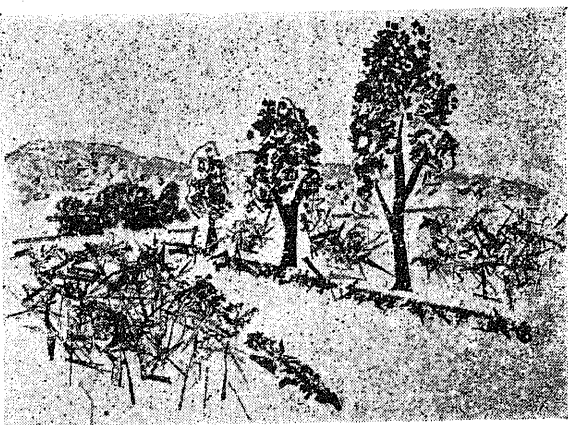
(第三区)



(第四区)



の材料を広範囲に求めたいという考えから、私の思いついた絵画と製作の中間的なものです。おがくず繪の描き方は、砂絵と全く同じです。描き方と云うよりはむしろ作り方と云う方が適当でしょう。これは、砂の代りにおがくず(製材の時出来る木の屑)を使うのですが、おがくずをそのまま、使うよりは、予め



直接染料で色づけして天日で乾して置いたものを用います。色の種類を多くして置きますと砂絵よりも随分複雑な工夫が出来て、出来上りも仲々面白いものです。

その場合、糊づけは、一色ずつ行い、ぬつた糊の上に、おがくすをふりかける時に、他の色のおがくすの上にかゝらぬよう、濡らぬよう気をつけなければなりません。糊づけし

たおがくすの上に他の色のおがくすがか、れば、とりのぞくことが出来ませんから、二色以上のおがくすを隣接するときには、先に糊づけしたおがくすの上に、紙を置くなりして注意します。又反対に、時には二色以上のおがくすを混ぜても面白くなります。出来上りは多色刷りの版面のような感じをうけます。おがくす絵は、砂絵よりは後始末が楽なようですが、画法の技術は、少しむずかしいと思います。しかし、それは完全な出来上りを期待する場合であつて、幼児に、創作欲を起させ、創作をたのしむことが出来るのなら、たとえ、後始末が面倒でも、完全なものが出来なくても、充分製作の意義を果しているわけです。明るい子供の製作のために色々と考え、工夫なさつて下さい。

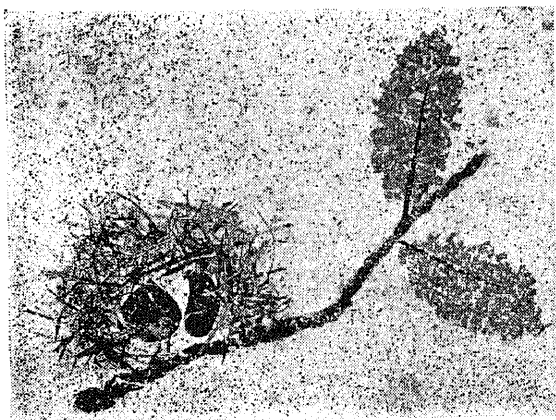
切りはし應用貼り紙繪（五、六図）

切り紙や爪切り貼り紙のときに出来る色紙の切れはしを、色に分けてためて置き、これを先生方のひまなときに細かく切つたものを材料として先にのべた、砂絵・おがくす絵と同じ要領で貼りつけるものです。即ち、台紙に糊をつけてから、細く切つた切れはしをのせて上から押えて後、台紙につかなかつた余分の紙を払い落すわけです。

切れはしを細かく切る場合も、表現する内

容に従つて非常に細かくしたり、荒く切つたりすれば色々と変化があつて面白いでしょうが、實際に、保育所、幼稚園で行わせる時には、そこまでは要求出来ません。しかし、大小不同、色々の形の紙切れがより集る所に又面白味もあるわけです。色紙の裏と表に濃淡があり、これで新緑の立木などを表わすと、切り紙の平面的な感じと違つて、立体的な感じを与えます。

〔第六図〕



いたずらっ子

— A の場合 —

谷口和子

幼児を毎日観察しておりますと、幼い乍らにそなえている一人一人の子供の特性を何とかつかむことが出来ますが、何か問題をもっている子供の指導には何がその根本原因かと探ることが必要になつて来ます。こゝにその一つの例を記してみようと思ひます。

問題の子供をAと致します。Aは幼稚園の帰りに同じ道すじの子供と一緒に帰ると帽子をとつたりつゝいてみたり、電車道に石をおいてみたりして附添いの父兄を困らせるいたずらを致します。母親も部屋を貸している女の子をAが物指してたゞいて困つたことがありますし、この子供の近くの母親達からはしばしばAがいたずらで、がき大将になりあふなくて困ると訴えられます。幼稚園では自分からけんかをしかける時もありますが、それより多く他の子供のけんかにとび出してゆき、三つどもえになつて腕力をふるひ、自分ほめつたに泣かず人を泣かせ、受持ちの私もヒヤッとさせられる行動をよくみかけ、一休何故この様な悪いいたずらをするのかその原因をさぐり根本的に直してやりたいと考へました。そこで日常の行動の観察をたんねんにし智能テスト、ロールシャッハテスト、運想検査TAT等を行いこれらをあわせて、Aとい

う子供は身体、情緒及び社会性、知性の面からどんな風に発達しそしてどんな様子であるかみてみると、

まず身体の面では、脊は高い方で体重は二十名の男子の上位であり、活力があり、走らせると相当早く走りますが、小さい時に股関節炎を患つたといふことで、バタバタ走るように感じます。おなかをよくこわし母親はそのため、飴を制限して与えるそうで一年の間は五回ほどたずねて見た将来の希望については、いつも「あめやさん」になりたいといふ答が出ています。夜は必ず一回起してやりそれを怠ると寒い晩はそそうをする。起す時に父親は寝台からころがりおとしてそこに一人で立たせるそうですが、母親はだいたまゝ連れてゆくといふことです。尚この子は左ききで大抵のことは左でやりますが父親はこれを極度にきらいなおしているそうですが、身体的な生活の面には問題の根本原因はなさそうです。

情緒的生活の面が目立つことは喜び、悲しみ、いたいことやつらいことに対して泣く等という感情の表現の乏しい子供で、けんかの原因も人のけんかを買つとか、一寸さわら

れたとかいう程度であまり深いものはみられませんが、連想検査で星に対して夜といひ夜はきらいだと申しましたし、父親と映画にゆき殺人や猛獣の出るこわい場面は顔をふせてしまおうですから恐いものしらすの乱暴者ともいえない様に思います。

善悪に関してはTATの十枚の画をつかつて話をつくらせた中に

○パイオリンを持ち出してお父さんにおこられた。

○人の部屋をのぞいてはいけないといひ叱られた。

○いじわるしてけんかになった。

等父や母に叱られたり教えられたりして何々はするべからず式に善い悪いを理解し、これに実行が伴わず教えられたことの口まねの様な傾向があることは問題であると思ひます。

家では犬を自分で世話をして飼つており、動物が好きで、ロールシャッハテストでも動物に関する語が全体の半分は出ております。又この子のかく画は粗雑でタッチがあまりく、行動もそれに似ています。

社会性の面からみると、遊びの仲間に積極的にはいるのは、野球、角力、格闘ごっこ、ブランコ等の動的な遊びで他の遊びに対して

はニヤニヤ笑い乍ら傍かんしています。

仲間にはいつても、例えば八百屋さんごっこをした時等は他の子供のつかわないものを集めて来て雑多な物をならべ自分だけ離れて平行してその遊びをしました。Aのことについて友達に好きが嫌いがたずねましたら、いじわるをするから、乱暴だからという理由で女の子も男の子も「嫌い」と答えました。所有物に対しての観念がうすくよく物を忘れます。社会生活の面にもやや問題がある様です。

知的な生活の面からみると、まずIQは、描画テストでIB、三浦式でIQT、どちらも三十数人中の二十番目位で普通知能と思われのですが、教師作成の問題でテストした成績は三十八人中第一位でした。

毎日十分間ずつ五日間観察記録をとつた中からAの言葉をひろうと

○いやだよ

○降りろよ二の組のブランコだものな

○かえせよ 等の十四回の発言がありました他の子供の場合は大体二十数回で言葉もつと長く、分類してみるとAの場合は、命令、威嚇、拒否、要求等の自己中心の言葉が多い様です。この記録の中からも伺えたことでの

が、新しく珍らしいものには何でも眼を大きくして衝動的にそれにとりくむ傾向があり、例えば平均台を使つて一本橋わたりをさせようと説明しているとそれは聞かずに、すぐさま亀の子の様にその台の下にもぐつてはいずりまわりました。

お葬式はにぎやかだから好きだといつたところがあつたので、案外にぎやかなのを好んでいゝるのかもわかりません。

批判的な思考は割合に単純で、新聞は大人のみるものだから嫌い、お医者様は病気をなおしてくるから好きさ、音楽、鏡は僕は女じやないから嫌い。等と父母や先生から聞いたことが基になつてゐる様です。

想像力についてはロールシャッハやTATで戦争や猛獣に関する想像力が豊かなのですが、これは父親があまり選ばずに映画につれてゆくことからとあとでわかりました。概して知的発達には普通の状態で幾分言語の面が劣つていますが、これもはじめの問題には関係ないと思ひます。

ロールシャッハテストで出て来た反応語を分類すると同年令の普通の男子と比べて反応語が少く其の上種類も少く、前に述べた言葉す分類で自己中心的なものが多く出て来てい

るのとあわせて生活領域のせまさを思わせま
す。

100の刺戟語に対する連想検査では小学校
の生徒に行つた平均に比べて内連合が極端に
少く、外連合が大学生の平均のそれに割合近
いものを示し、表面大人つばい所があるとい
うことがこれでいえると思います。刺戟語に
対して類似的の反応語をあげているのも多く、
これは爆發性の氣質をもつていゝるものに多い
現象だといわれています。

これで大体このAという子供のアウトライ
ンが出ましたが、問題の原因は社会性及び情
緒の生活にあるらしい。そこでこの子供の要
求及びおかれてゐる環境をしり、どんな環境
を子供自身が望んでいるかを知る手がかりに
TATの結果をみなおすと、攻撃的な環境を
常に意識している様で、主人公が保護援助さ
れ親愛される環境をつくつております。主人
公の要求は攻撃と支配に終始しておりこの主
人公を本人におきかえて考えてみた時、この
時期の子供として攻撃的支配的な要求はさほ
ど問題にならないと思ひますが、お父さん
「こわい人だ」と友達や私に説明することか
ら主人公のおかれてゐる環境は攻撃的な環境
であり、それから救われたいとねがつてゐる

ものと思われまゝ。そこでこの子供の環境を
みると、父母共に旧制中学の卒業で一人つ子
です。北支那で生れ三才頃東京の現住所にう
つるまでに六回引越してあります。中でも言
葉を覚えるさかりに、母の長思ひの爲両親と
わかれて暮したことがあり友達になかつたそ
うですから、氣まゝに話の出来る環境がなか
つたために言葉の発達がおくれたのではない
かと思ひます。母は欠かさずPTAに出席し
大愛教育に熱心の様ですが、あれがよいとい
われ、ばそれに、これがよいといわれればこ
れにという具合でしつかりした考えをもたず
に動く氣の弱さをもつております。父親は材
木の仲買いをしており現在はオートレースの
選手もしてゐるとかで近所の人にいわせると
人ずきあいが悪く道で会つても顔をそむけて
しまふさうです。

幼稚園には運動会の時しか来たことがなく
それも幼稚園の先生達は、父兄の人の「さす
がにオートレースの選手だけあつてPTAの
競争は一等だつた」というかげ口で知つた程
です。一寸したことでもたつた一人の子供は
ガミガミとなり、手でたたき「自分は子供は
嫌いだ」というさうで、ともかくこれのお父
さんが問題だと考え今まであげた材料をもつて
出かけました。くちびるの厚い眼のギョロツ

とした人でしばらくはギョロギョロ何をしに
来たと言われている様に思ひましたが、たま
たま自分の子供の時はこんな弱虫ではないし
もつと頭もよかつたという話になつたので、
私が一番よい成績であつたテストの話をしま
すと、すつかりギョロギョロした調子が變つ
てその日丁度みてきたアメリカンサーカスの
話や映画の話で「あ、その前にこうだつた」
等と引きかえしてみたりしながらずらずら話
してくれました。

そこで子供の協調性のないのは親のそれか
ら直さなければいけないと考え次のPTAか
らは半分以上はお父さんが出て下さい、出ま
しようと言束しました。家で見た母親は子供
に對してまだ赤ちやん語を使い、スバルタ式
と自分で稱してゐる父親と妙に對照的でし
た。

このあたりでこの子供をどう指導したらよ
いか考えてみると、第一には教師が子供との
間に友好的な關係をつくること。この子は常
にまわりの圧力を意識して警戒的になつてゐ
る。これは父親の権力に對して母親が氣弱で
いる、叱り方に極端な違いがある。その結
果がいろいろ問題の原因をなしていると思ふ
のです。幼稚園の先生に對してもやはり權威

を感じ帰り道等にはけ口をもとめる結果となつてゐるのだと思ひますので是非教師からの圧力を感じない友好的な關係をこしらえてゆきたい。そしてその事をよくよく父や母にもわかつてもらわなければいけない。

第二はこの子供に自分自身で子供としての子供らしい生き方を教えてやりたい。それは結局父も母も子供の本質を知らずに、片方はあまりに大人の要求をし片方は又本当の姿以下に赤ん坊扱いをし、よい程度に扱われていない。又同じ頃の子供ともまれる場面が少い。それでいたずら盛りの子供が相手に好感をもたれるはずの仕方をしらないでゐる。

この子供の場合幼稚園で友達とどういふうに遊んだらよいかグループの中の自分の生活というものを、級の人の世話や、先生のお手伝い等をさせ乍ら個人的によい生活態度のあり方を指導してゆきたいと考えています。Aの家庭にもつとやわらかさ、温かさ、デリカシーがあつたらとつくづく考えさせられました。子供の問題は多く父や母の家庭の問題でもある様です。

(東京学芸大学附属幼稚園)

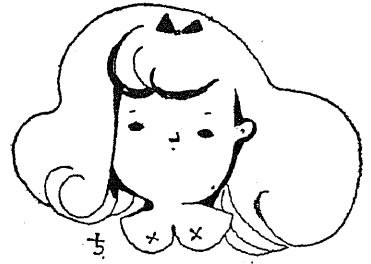
(25頁から)

一方教師の側からこれを見れば、自由遊びは指導方法の一種であるということができよう。

そこでは、言語も社会も絵画・製作の指導もすべて自由遊びの形態においてなされて行くことが望まれるのである。自由遊びの指導計画についても、いままでは殆んど無計画であつたか、或は計画をたてるに苦慮されて居つた。(恐らく進んだ考えを持つもの程。)しかし右のような見解に立つ限り、自由遊びの指導計画は絶対に必要なものであり、また、たてやすく、そしてやりがいのある仕事となるう。

以上、自由の考え方、遊びに対する考え方を明かにし自由遊びに学習形態の意味をもたせることによつて、難解な自由遊びの性格を幾分でも解明し得たと思う。このような考え方に基く自由遊びを幼稚園教育の基本的なものと考えることによつて、過去の托児所か或は古い小学校の亜流の如き幼稚園教育から脱して、新しいそして真の幼稚園教育への通路が開かれるものと信ずる。

言葉が足りないので意志の通じないうらみがあり、誤解をまねく恐れもあると思うけれども、その意図するところがくみ取り得られたならば幸である。尙、自由遊びの指導について具体的に述べるならば一層明かになると思われるが、それは後日にゆずることとする。



十一月の幼稚園

堀合 文子

十一月の保育

幼稚園……堀合文子
保育所……鈴木とく

十月から十一月の始めにかけて此学期の大きい単元は大体やり終えた事にして、十一月は幼児の遊びの中より直接取材したものを主題としてみる。幼児の遊びの中より安易に取材し、それを発展させて、又幼児の中へもどしてあげるとゆう形で、その園の環境、幼児により一概に言えぬが、此処には、よく幼児の間に展開されている遊びを一つの例として取りあげておく。繰返すようだが、計画はすべて幼児の年齢に応じた。又環境、その場の生活に応じた計画でなくってはならなく、その計画は、時には、私共指導者より、幼児に引きかけたり、時には幼児の中より、主題をみつけ出して、それを指導者が展開してゆくのがある事は前述した事である。今回のそれは

の後者の場合で、主題は無題、とゆう事になるでしょう。

幼児の生活の中から拾えばよいのだから、先生側は計画しなくてよいから楽だと思はれるかもしれないが、却つて、指導者が計画を持つてそれに誘導するより以上の手腕と経験とが必要で、取材の仕方により貧弱な主題にもなれば、すばらしい新感覚の主題にもなり、好いかげんにすれば、それですむし、一生けんめい努力すればする程むずかしい保育方法だと思ふ。その点、無計画保育とも名づけましょうか。これはより一層の研究と努力をまつ所だと思ふ。この点この、何処にでも転がっている平凡な題材を例にあげておきましたから御参考になれば幸いです。

年少組

主 題

○汽車（又は電車）ごっこ

幼児達が縄で電車ごっこをしている。幼児達と相談して方向書、停留場、信号旗、切符、切符入、車掌、運転手の腕章、カバン等を作る。保育室を全体、電車の走路にして、切符売場等もうけたりして遊ぶ。道具はなるべく、幼児の手で作ったものがよい。年少組は電車ごっこの程度でよいと思う。

○音楽会

うたの時を音楽会と名づけて皆と話合つて、自分達何かすきなものを一つづつやる音楽会を開きましょう。話合うと皆それ／＼考えて、その日を楽しみにするものです。歌だけでなく、出来るものお話でも紙芝居でも何でもよいのですが年少組では一つ歌がうたえればよい事にしておきます。

これは必ず一つはする事にするのが大切です。やる人聞く人の態度もその都度しつけましょう。

○落葉あそび

木の葉もおちる頃となり、幼児達も遊んでいる途中きれいな葉つばといつて持つてきます。

紅葉した葉、もみぢ、いちよう等美しい葉をみたり拾つたりしてあそび、絵にかければかきまますが年少組は美

年長組

○汽車（又は電車）ごっこ

年長組では年少組より遊びも勿論複雑ですから、幼児達とよく相談して、種々道具をつくりましょう。年長組は今更この遊びをとり出すのがおかしい位もう前よりの遊びは盛です。それだけにこちらで手を入れて却つて興味をそこなわぬよう注意しましょう。年長組は電車ごっこより汽車ごっこの道具の方がよいでしょう。年少組の道具の他に踏切、シグナル・開札口・駅での売物その他駅の時間表とか種々と相談してつくり、保育室、庭を活動場面として、役割を決め順次交替して遊びます。

女兒のままごと遊びとも連絡して組全体がこの遊びに入るとその発展はおもしろいと思えます年少組と同様道具は下手でも幼児の手でなつたものを用います。踏切、シグナル等こしらえさせた様な道具は興味がうすれます。

○音楽会・ちえのわクラブ

音楽会は年少組とはこびは同じですが、お話、手品、紙芝居、ピアノ等種々年長組ではおもしろいのが出るとおもいます。

ちえのわクラブは、幼児の間にも此頃は三つの歌とかちえのわクラブとかいう言葉が話され、お互に遊んでいる事があります。それをとりあげて皆で楽しむ一時を作

<p>自然観察</p>	<p>お話</p>	
<p>○落葉・紅葉 日毎に色が美しくなる庭の木をみながら、その移りか</p>	<p>○文化の日の話 ○平三さん権蔵さん ○一寸法師 ○五色の玉 ○不思議な卵 ○七五三について ○人形芝居「猿とかに」</p>	<p>しい葉をあつめておしげにしたり、形とつてあそんだりする程度でしょう。</p>
<p>○落葉・紅葉 年少の時と同じ取扱いだが、年長ではその落葉で種々</p>	<p>○文化の日の話 ○きのこのきのすけ ○踊り切らした靴 ○文福茶釜 ○ねずみの嫁入り ○七五三について ○時局の話 世の中の大きな出来事を幼児と話合う程度。 ○人形芝居「かた／＼かたの竹馬小僧」 幼児達に人形を与えて自由につかわしてみろ。言葉のつかい方等簡単に指導する。</p>	<p>○落葉 年少組よりも少し観察細かに常盤樹との比較、あつめた葉の模様をつくつたり、そこに創作面を仿かせます。 りましよう。 勿論、幼児と相談して種々の規則等もきめ、始めから先生の案を提案してきめてしまう事はよします。歌のあてっこ・お話の題をあてるまちがいをさがす等おもしろいでしょう。賞品等出すのも一つの案ですがその賞品も幼児達の作つたものにします。</p>

わりを話合つて観察する。木の名前もこの時正しく覚える。

落葉を拾つて遊びにつかつたりして自然の中に観察させる。

○落葉たき

月末になると落葉をあつめて落葉たきをする。幼児達も手伝つて集め、その落葉の香りを味いながら、暖まる事も一つの楽しみなもの。

○みの虫

木の所にさがつているのをみつめて、着物をきる所をみせる。箱の中に紙又は小布を刻んで入れ、みの虫をその中に入れると次第に着物をきてゆく所がみられる。

○霜

はじめて白くおりの霜を皆で話合いながらみる。これからどん／＼寒くなる事も話合つと、幼児達もこれからの霜や水に注意するようになるでしょう。

○藤・蔦の葉柄

落葉と同時に藤・蔦の葉柄が一杯おちる。春、夏、秋と変化して来たこれらの葉っぱや実の話しながら、この柄を集めて、むかでや亀を作つて遊びの一つとする面白さ。

○常盤木の葉

落葉樹と共に、葉のおちぬ木の話合いをし、どんな樹

創作して遊ぶ方へ導いてみる。

絵にかく。模様をつくる。葉を用いて製作品をつくる。押葉をする。等々。

○落葉たき

年少と同じ。

○白い息

次第に寒くなると自分達の吐く息が白くなる。寒い日この事を取上げて皆で実際に経験したりして話合つ。これから次第に寒さのます事も話しておく。

○七五三

子供達がこんなに丈夫に大きくなりましたとの御祝だという事を簡単に話しておく。

○からすうり

自然が次第に冬枯れてゆく中に赤くうつくしい実をみせる。つるの間にかわいらしい実をつける所をみせ、出来たら取つて来て写生させたり切紙にしたりして観察させる。

○霜

年少と同じ。

○常盤木

年少と同じだが、紅葉した葉と常盤木の葉との比較を實際にさせてみたり、この二つをまぜた、模様をつくらせたりしても又おもしろいものが出来る。

音 樂
リズム

がおちないか。
簡単に比較して話す。

○もみぢ

○汽車が走る(律動)

汽車ごつこの主題に併せて、その遊びの中に入れ、おももしろく出来る。幼児が汽車(電車)を走らせている時に弾いてあげるとよい。

○たきび

○おふる(律動)

○すずめ

○  のリズム

○楽隊あそび(ハンドカスタとタンブリン)

まだこの二つだけで、基礎打からいつもはじめて、後にハンドカスタとタンブリンと別れて、曲により合奏す。

○鑑賞

○でんしやごっこ

○おちば(幼児のあそび)

幼児のあそびの中のゆらぎを用いるのと、同時に自由表現としておちばを表現させてみる。

それが出来たら、芽が出て葉が落ちるまでの表現を自由にあつかつて一つのリズム遊びにしてもおもしろい。

○かわいいボルカ(律動)

○のりものあそび(律動)

○拍子に歩く事

先ず二拍子で歩く事とする。拍子ではじめとリそれから足に移す。

○楽隊あそび(ハンドカスタとタンブリンとトライアングルと大太鼓)

樂器の種類はやつと一通りになつたがある一定のもののみが出来るのでなく誰でも何をやらせても出来る様に注意する。

いつも一応一人一人一樂器は経験する様基礎からはじめらる。

○鑑賞

別にレコードの名はあげておかない。これは必ずとい

画繪
製作

○電車ごつこの道具作り

- ・切符 年少だから字のかけるものはかくが絵の切符でよい。
 - ・腕章 腕にまく様に、色は好きな色にぬらせ、車掌、運転手とかく。
 - ・方向がき 縄につけるよう木の切片は、ボール紙でつるさげる様にして何処行とかく。その行先は幼児達と相談し字のかける人にかいてもらう。
 - ・車掌のかばん 書物のサツクか薄い箱を縦に用いそれに紐をつけて首からかける様にする。
 - ・停留場 細い棒に木の切を打つけてそこへ停留場の名を書き立つ様にする。
 - ・信号旗 木はエナメルでぬつたりすると美しくなる。紙とヒゴとを与えて、自由に作らせる。が進め旗止れの旗はあらかじめ話合ひの中で理解させておく。
- 別にもどの様な形という事はないが年少だから一定の形を作図して与え落葉拾いの時それを用いて遊ぶ。
- お画かき(自由)

ら風になるから適当に園にあるものと同じものを繰返し
きかせるとよい。

○汽車ごつこの道具作り

- ・切符・腕章・方向がき・車掌のかばん・駅の立札・進号旗は年少組の時の要領でよい。
 - ・踏切 竹か木の棒にボール紙の札のようなのを数本間隔おいてぶらぶらするようにつける。色をぬる。
 - ・シグナル 大工仕事として、棒に赤・青の進号をつけたのを打つけるだけでよい。幼児の出来る範囲のシグナルで本式の様に似かなくともそれで却つてよいのである。
 - ・駅の売場 駅でのおべんとう・お菓子・牛乳・絵本・新聞等幼児とその種類を相談して、画用紙や空箱、空ビンを利用して作る。
 - ・開札口・切符売場 少し大きい箱に紐をつけて首にかける様にしてその売物を入れて売あるくようにする。
- 机や、大積木、リング空箱等を利用して、開札口の様に切符売場の様に幼児に工夫して作らせる。横木で遊ぶようにして作るので家のように作るのではない。
- トランク・鞆
お客様の用いるもので空箱に色をぬり手をつけ

○えのぐのお画かき(自由)

○切紙(自由)

○ぬりえ(及川先生のぬりえ)

寒い日が来ると部屋で遊ぶ事が多くなる。もう年少でも絵もかけるようになってきたからぬりえをはじめ。自由にかゝせてよいがていねいにかく事、やたらと何枚もかゝぬ事、種々あいている所をたしかかく事を約束して与える。後は自分の好きな時にかく様にする。

○日の丸の旗作り

紙に丸の線のみかいたものとヒコを与えて自分達では工夫して作らせる。

文化の日に持つて帰るようにならせる。一年の中祝日の何度かでよい日の丸の旗をつくり持がえらせたいものです。

て作る。

まゝごと等で旅行にゆく時に用いる様にして遊ぶとねもしろい。

すべてこれらは幼児の手で作るので重荷にならぬ要求が大切である。大人の手でつくられたものよりも一層、尊く又幼児自身楽しみなのです。

○落葉拾いの籠

もう一度年少の時したが、作つてみましょう。年長だから、紙を与えただけで好きな籠を自由に作らせてみます。

○写生(紅葉した葉)

(からすうり)

○お画かき(自由)

○えのぐのお画かき(自由)

○切紙(からすうり)

(自由)

○ぬりえ

○自然物のおもちや

・葉柄で作る。むかで・かめ

・いちよう・もみぢの葉等で作る種々の人形とか動物とかを工夫させてみる。

○日の丸の旗づくり

年少と同じ

習 慣 き	健 康 の 習 慣	行 事
<p>○寒くなると手を洗う事が粗末になるからもう一度丁寧<small>ねい</small>に洗う事を約束する</p> <p>○人になにかしていただいた時は「ありがとうございます」といいますよ。</p> <p>○お友達をおしのけて先にしたりしないので順番に番をまちなしよ。</p>	<p>○十一月の身長体重測定</p> <p>○なるべく戸外であそびましょ。</p> <p>○なるべく戸外であそびましょ。</p> <p>○帰宅後のうがいは寒くなるから特別よくしましよ。</p> <p>○十一月のお誕生会</p>	<p>○文化の日</p> <p>○勤労感謝の日</p> <p>○十一月のお誕生会</p>
<p>○手を洗う事を再び約束。</p> <p>年少と同じ</p> <p>○手洗所へ入る時は叩いてから入りましょ。</p> <p>○人に聞かれたときははつきりと返事をしましよ。</p>	<p>年少と同じ</p>	<p>年少と同じ</p>

十一月の保育所

鈴木とく

私達がこの月の保育を、どの様にしたらいいかと考える時、自分の受持つ組の事をまず考えます。そして、それを実行する為、必

ず他の組との連絡が必要になります。出来ましたら、園長、主任を圍んで、その方達と共に、その月の、その保育所の保育を、どう運ぶかについて、主となる方の意見をきき、保母も亦、それに対して考えをのべて、いろいろと計画を立て、順序をねり、運び方について保母の考えを話合、と云う事が必要です。この事に慣れずに、

たゞ、主となる方の、一方的な立案をきき、この様にしたらよいと云はれるまゝにする事に慣れてしまひますと、それは安易ですが、自分が責任をもつた幼児のために、各方面から考えて、無理のない生活のさせ方をしようと、念慮する機会を逃がしがちになつてしまひます。

殊に保育所は、各自の年令による受持ちの組、或は他の方法による受持ちの組だけで、その計画のまゝに生活させる事が出来ない場合が沢山あります。保育所内の部屋数とか、設備の関係とか、保母の出勤の状況とかで、必ず、他の組との事を、たえず念頭においていないと、その保育所全体の動きが、滑かに行かず、幼児のために気持ちよい雰囲気を保てなくなつてしまひます。自分の組の、その月の計画をたてたり、進行させたりするには、保育所全体の計画を知り、各々が他の組の計画を知り、それとどの様に連絡をして行けばよいかを考えなければなりません。実際的にも、部屋と云う冊をして、その中だけ、考え、行うわけには行かない事が多く、殊に、短時間の教育のみでなく、家庭生活に代るもの、であれば、なおさらこうした態度のみでは、すこせないのだ、との考えをしつかりさせ行きたいと思ひます。

それでは、十一月の保育所の事を計画する時、どの様な方面から考えていきたいと思いますか。私達は、しきたりの様に、先づ季節を考えそれに、幼児の生活をともなわせて行こうと考えがちです。

季節々々による保健上の注意は、その季節に特に、と云うものがありますから、季節が主体になつて、それに体の事を合せて考えて

いくべきでしようが、幼児の保育の仕方、保育所内での生活のさせ方を考える時には、必しも、季節、行事、と云う事が、考えの主体になるべきなのか？と、も一度、反語してみてもいいのではないかと思ひます。自分の受け持つ幼児が、今どんな発育の度合にいるのか、どんな状態なのか、と、先第一にそこを凝視して、その所を基に計画をねつて、さて今の季節と行事に、適合させ得る個所は、どれとどれか、どの様にすれば適合させ方に無理がないか、と考えてみなければいけないのではないかと思ひます。この事は、ことに三、四才から一、二才を扱う方に申し上げたいことです。

十一月頃は、各年令なりに、落着きと、まとまりを感じると思ひます。四月から新しく受け持つたとしても、もう七ヶ月も共に過したのですから、個々の様子もわかり、二、三十人から四、五十人の塊としての幼児群と保母の間にかようこ、ろも、通じ合うものが出来ていると思ひます。いくつかのグループで継続製作や、共同製作も出来ましようし、進んで大人のしていることをやりたがつて、上手に手伝いが出来たり、年下の者の世話をしたがつたりもしましよう。年少組も、わけのわからないメチャク描きから、それらしい形のもの描けて行ける様に、何か、集団としての動きがとれる様になつて来ていると思ひます。

この様な状況を見ながら十一月の、季節を思ひますと、もう冬仕度をする地方もありましようし、まだく戸外生活を、沢山とり入れられる地方もありましようが、全体として、活動的と云うより、静的な面が多くなる季節の始りと思ひます。中旬以後は、寒さへの準備の時ともなりましよう。落着いて、静に、ことの出来る時季で

すが、身体的には、積極的に活動と、抵抗力を蓄えることも考えなければなりません。

これらの事から、遊びの計画や、保健、生活指導の予定や注意点等が考えられますが、それ等の目標を考え、発展してくれ、ばと願う遊びの、各々の種類の、相互関係や、順序配列を考える前に、この月の行事と、関係づけられるかどうかを思つて、それをとり入れて関係づけることを重くするか、それとも、あつさりと扱つておくかを、自分の受持つ年令の状態をみてきめましょう。

十一月は、日本が文化国家として大きな発展をとげる為の創造神への祈りの日と、人間として理想生活への憧れと、それを培う基を思ふの日、「文化の日」と「勤労感謝の日」があります。この行事へ何等かの意味で関係づける遊びを、計画出来るのは、年長組（四月現在で五才児の組）と、中の組（同じく四才児の組）の、八月生れ迄の幼児ではないかと思ひます。

年少組（三、四才児）以下は、無理に、しようと思えば、出来な事は無いでしょうが、保母が、常より特に、情緒的雰囲気をつくり出す様、心掛けて行く位が、自然ではないかと思ひます。

「この様に」と思ふ遊びと、それに伴う生活指導の面、又、遊びの展開と関係しない生活指導や、保健上の注意等を、いくつか考えてみましょう。

◎落着き、と、まどまり、の点から、いくつかのグループで、共同製作や、継続する分担作業等を計画して、創造精神が、活発に働く様にしたい。例えば、

○絵と折紙とで、幼児の発案になるものを、大紙に製作する。
○紙芝居をつくる。

○人形劇の人形を、分担してつくる。

○ねんど等で、各自の製作を組合せて、一つのまとまつたものを構成する。

○木工で、やさしいものを、之も幼児の発案になるものを、練ひき、鋸かけ釘うち等の分担で、組たてる。等々。

◎「文化の日」を一日丈の祝日と考えず、創造的な表現活動を、各年令相応なもので構成し、発表する様にしたい。

○製作展、

○人形劇場

○お話や、遊びから発展の劇あそび

この事には、出来たら、家庭の父母も、絵や、製作に出品したり保育所の職員も出品して、共に楽しむ計画をしてもいい、のではないのでしょうか。

◎勤労と美の創造は、生活の主体であることを感じとらせたい。

（平和な生活と云うことについて）

○民話、童話から、或は創作して、勤労の楽しさと、それによる美しい賜についてお話する事を通して感じさせる。

○大人の展覧会を見学する。（美術展や、菊の花展覧会等）

○何等かの生産過程を見る。働く人と、出来る物と、（之は都会地と農村では違う）

○勤労は、大勢のために奉仕している。美しい姿である事が、感じとられる様な労働の種類を選んで、見たり、話したりす

る。

こう云う風に考えて、之等のこと（もつと色々あるでしょうが）を、いくつかの項目に発展させて行く様にしたらいと思ひます。

項目の中でとりあげる細い点——製作の種類とか、話の題とか、歌の曲目とか——はあくまで、其処の環境の幼児を考えてすべきです。保母さんが、勤勞精神と創造精神とで、色々出版されているものを参考資料として組立する勉強をなさる様、幼児の為にそうした態度でありたいと思ひます。示されたものを、そのまゝ、とりいれる安直さに、慣れてしまわない様に。

保育は個人差をよく知つて、とか、あくまで個々の発達に依つてと云はれますが、それが本当だと思つても、与えられた四、五十人が、一つ或は、三つ四つの塊となつて、向ひ合う時は、何か困難を感じます。ですから、何とか自由な気持で、幼児が、夫々の遊びをくり扱げられる様つとめましよう。

あれ、これと、計画した事の、環境をと、のえてあげましよう。各々のグループに目をとゞかせて、面白く発展して行く様、一寸したヒントを与えましよう。幼児を塊として扱ふ技術は、一種の創造精神であり、てまめ、と親切（之はやたらに、手伝うと云うことではなく、心の働き方として）から生れて来る様に思はれます。

製作の爲には、材料が豊富で、惜しみなく与える気持（ムダ使いをさせるのではなく）の余裕がいらいます。経済が……と云わず、一

寸、お母さん方にお話すると、空箱、布切、包紙、薄板、等々。その方の余力は、絵の具、ねんど、折紙等へまわしましよう。

遊びが屋内的、靜的な方向にむいて行く事から、季節的配慮として、運動に注意したいと思ひます。

◎健康保育の面から

大人は、晩秋の肌寒さをすぐ感じて、元氣な幼児に迄、それを及ぼしたがりますから、この事を注意しましよう。部屋遊びの気分転換の上からも、必ず戸外遊びをしましよう。

夏、初秋から続きの裸体遊びは、そのまゝ、続けるか（年少児）乾布摩擦に代るかしましよう。

年長児は自分で出来ませんが背中は、お友達同志で、こすり合う様にしましよう。一、二才の年少幼児は、午前中の日光浴を続けたりおひるねの寢巻に着換えをする時、こすつてあげる様にしましよう。

短時間で運動量の多い遊び、たとへば、鬼ごつこの種々な変型を考えたり、梯子をブランコにかけて登り、おひる時はブランコの柱から滑りおひる等、運動会用の帽子や、鉢巻は、藏つてしまわないで帽子と巾着や、帽子リレー等に使いましよう。

この月末から、心配性のお母さん方は、必要以上の着せ方をなさつていいますから、登所後、遊びの時に、保母が一々注意して調節をはかりましよう。

十月末からこの月初めに、登所後塩水の含漱を忘れずする様に、朝早番の保母は、こしらえておきましよう。ガラ／＼と、のどをす

る方です。帰宅後、家でもする様に、連絡がつけば、それがいい、のですが、お母さんたちは忘れがちですから、保育所を出る時に又させる様にしましょう。風邪引の予防のためです。

寒さに向うにつれて、皮膚の清潔がちになります。お昼寝の着換の折等、よくみて、家庭に、入浴の事を伝えるなり、お湯をおかして拭いてあげるなりする心づかいは、保母として、当然の事でしょう（私は、なるべく、年長児をのみ対象としない様に考えているのですが、三才児や、一、二才児のことについて、少しくわしくと思うと、「何月の保育所」と云うことに当てはまらなくなるものがあるので、所々で、年少児も含めて申し上げるつもりで居ります。）

生活指導の面からの事を項目たてる前に、この月頃の、年長組、中組の五才になつた幼児は、進んで、大人のする事をしたり、手伝うことが嬉しかつたり、年下のものをかまつてやりたがつたりする状態にあることを、計画の考え方について申し上げた時に云いましたが、その事を、何とか、家庭的な保育所の雰囲気をつくる上から保育の面にとりあげたいものです。これについては、保母が、年令別の組の責任にのみ固執しては出来ませんし、気がばりも、複雑になりますので、従来の学校教育的な点に、重点をおく方にとつては、もすこしホームライフな気分を、たつぷり用意しないと、混乱が起ると思います。

おやつ、食事、誕生祝い、散歩、お帰リ等々、生活の場面で、年長、年中、年少の三人単位の組合せの生活は、進んで保母の手伝い

にもなり、年少児への同情や親切の発露にもなります。（一、二才児ははぶきます）

この他、年長組には、園長会や、保母会が保育中の施設で行はれたりする時、又は来客等に、適当な応待を、まゝごとでなく、本当にさせてあげることもよいのではないのでしょうか。

三才児組はこの頃では、一応、いろいろな事が、すこしづ、きちんと出来上つて来る状態が現れ出します（個々には、もつと早い幼児がありますが、組としてまとまつて）から、一応、これ迄は、その様にするものだと云う事にのみとめていたのを、やり方とか、出来工合とかに注意をむけて行かなければならないと思います。

例えば、これまでは、食前食後にうがいをする、と云うことだけでしたが、それを、ブクくと、ガラくとにわけて、どちらからも上手に出来る様にするとか云う事です。

どんな事をとりあげたらよいかは、その所や、幼児の状態で違ふと思いますが、大体次の様なことは考えられるのではないかと思います。

○うがいが、ガラ／＼が上手に出来る様に。

○歯ブラシの練習（家庭ではもつと早くしている方もあります）
うが、保育所対象の家庭では、少いでしよう）

○鼻をぬぐうだけでなく、片方う、おさえて、フン／＼とかむこ
とを覚える。

○手洗いの後、よく拭きとる様に。

○用便の後や先に、便所が清潔かどうかを気にする様に。（上手に用便をする事）

○食後の後片づけがきちんと出来る様。

○ぬいだ衣服をまとめる丈でなく、きちんとたむ様に。

○シーツを年長の幼児と一緒にたむ。或は、保母と一緒にたむ。

(八月頃四才になつた幼児は、その頃にもう、保母と向きあつて両端をもつて、シーツがたむますし、自分の布団に、自分でシーツがしけます)

これらのことを、一日の保育プログラムの夫々の場面にあてはめて行けばよいと思います。氣長に、ゆつくりと、しかし、最初に、よいやり方を示しましょう。

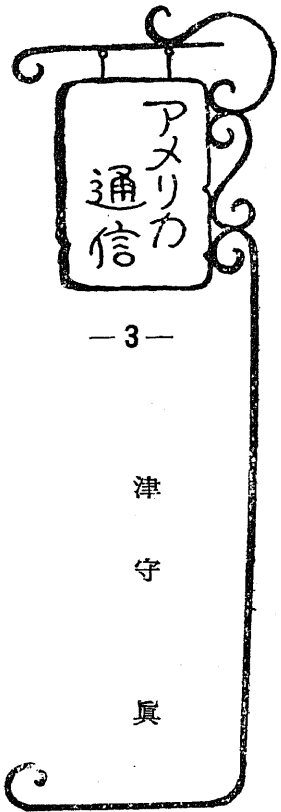
歌を選ぶにも、目的をもつ製作、たとえば、何々を折る、とか、切るとか云う時、この年令は、あくまで發達度を先に見るべきで、行事とか季節へむかわせてさせるべきではないと思います。自由な遊びで出来上つて行つたものを、その時の行事に、上手にあてはめてあげるのが保母の役目ではないかと思ひます。やたらな自由保育ではなく保母の心がまえの中に、發達させたい願ひをもつた環境設定の豊さと変化を与えるべきでしょう。

四月から歌う歌をえらんで行くにしても、へ調、或はハ調の持つ、音高、調子、ニュアンスの感じは、リズムもなるべく同じ様なものを選んできかせたり歌つたりしている中に感じとられましよう。その他の種類は、大きい組の人達が、正しく歌うのをきいていきますから、種類が少い等、心配する必要はありません。折紙にしろはさみにしろ、やさしい基本と、自由な練習が重つていれば、何か

目的物にむかつた時は、困難を喜んで、克服するでしょう。こんな風にしていたら、全体の計画である、創作展や、人形劇場に参加出来ないし、参加しても、みつともないと思うのは、大人の保母のみえでしょう。年少児は、そのあふれる生活の喜びを表現し創作したのですから、立派にかざつてあげたいものです。人形劇の切符作りは、直線切りを少しづつ、自由の中にはめこんでおけば、この頃には出来ます。年令が低ければ低い程、食器でも、その他の器物でも、上等の品のよいものを揃えたいし、きくもの見るもの、わからなくても、美しいと感ずるものを与えたいと思ひます。二、三才児の特徴は、情緒的にものを把握するのですから――。

この月頃に四才になる幼児が多くなるのですから、言葉のやりとり、い、ひ、び、ぎの持つ言葉と心がけたいし、韻をふくんだ文や詩の反唱等を、遊びの中で扱いたいものです。お話は、いつもく大勢集めてすべきものときめないで、庭の日向や、部屋の一隅、思いくの姿勢でき、ほれたいものです。

三才児が、四十人以上等という保育園は、真剣に、保母の人数、他の組の保母の協力などについて、頭を悩まし、計画や、取扱い方を十分に研究しないと、児童のための幸福な場所が、坊く親の為の幸福と云う逆コースをとるのではないでしょう。



津 守 眞

○北欧の人々

ミネアポリスは、北欧系の人が多い。氣候が似ているので、北欧の人々が好んでこゝに移住したのである。北欧系の人々は、外から見るとすぐわかる。皆、美しい髪を持っている。きら／＼輝く金髪ではなくて、淡い黄色、雪のような金色である。誰が見ても、ほれ／＼とするような、落着きのある美しい髪の色である。

それから北欧の人は名前でもわかる。語尾に Son のつくのは、先ず間違ひなく北欧である。Anderson, Nicholson, Erickson, Nelson, Henderson, 等々。電話帳で、こういう名前を引いたら、数頁に亘つてのついでにある。

北欧の人達は落着いていて、親切なことで有名である。それから、スウェーデンの

人は、料理が巧いので有名である。

私の泊つていた家に、スウェーデンから十八の時に移民してきた、というおばあさんがいた。コーヒーが好きで、お菓子も焼くのが好きで、毎日のようにコーヒーを飲まないかと、誘いに來てくれた。両方ともなまりの強い英語で何時間もだべつた。

チャイルドワエルフエアーに、ノルウェーから勉強に來ている、女子学生があつた。此の冬は、会う度に、早く家に帰りたい帰りたいと言つているが、念願叶つて一月許り前に帰つてしまつた。私が此処にきたばかりの頃、よく、寂しいだろうと言つて話しかけてくれた人である。

概して、私共日本の学生は、ヨーロッパの学生と落着いて話が出る。困柄も似ている所が多いのであろうか。一晚、イギリ

スの学生、ノルウェー、オランダの学生と私と、ゆつくり話し合う機会があつた。いづれも、チャイルドワエルフエアーを勉強している人々である。どの国も皆、キングクイーン或はエンペラーを持つていた。どの国もアメリカ程沢山の自動車を持つていなかった。どの国もテレヴィジョンが此の国のように普及してはなかつた。どの国もデート (Date) が此の国程流行ではなかつた。ノールウエーの学生が話していたが、大学で教授が Date という語を訳すのに困つて、説明するのに一時間もかゝつたのである。

幼稚園の事をいろいろ聞いてみたが、アメリカと殆んど変りがないようである。制度上から云うと、オランダが日本に近いようである。幼稚園というところ、大が、三、四、五才の子供を扱い、公立もあるが私立が非常に多く、日本のように独立した施設になつてはいるものが多いそうである。此の人達は大きい、学校心理学者、或いは児童相談所に仿く人達である。それからイギリスも、ノールウエーもオランダも、そして私達の国も皆、戦争の被害を受け、爆弾を受けた国々である。そして戦争と軍隊を、極度に嫌悪する点においても、私達の意見

は、完全に一致してしまつた。これらの人々は此の夏で、それ／＼の愛する國に帰つてしまつた。

北歐と日本と云うと、世界の果から果で、最も遠い所であるけれども、人間の情には全く変りがない。どうか、こういう國々の人々と自由に交通しつゞけたいものである。

○東南アジアの人々

アメリカという國は、現代の世界で一番大きな國の一つである。そしていろ／＼の國の人々が集まる。ヨーロッパから移住して来た人々のみでなく、いろ／＼の國から學生が集まる。私のいるミネソタ大学だけでも五百人からの外国人留學生がいる。その中には、東南アジア諸國の學生も沢山いる。ビルマ・タイ・シンガポール・フィリッピン等々。

これらの國と日本とは、十年前に密接な關係にあつたわけである。日本が軍隊を進駐させたということ並びに、これらの國が日本軍を拒否し、或は受け容れたという点において、これらの國の人々と接する時、私は一種の感慨を禁じ得ない。一体彼らがどんな眼で日本を見ているであらうかと。私達の國は数年前に、それらの人々の頭の

上に爆彈を降らせたのである。

これらの國の中で特に、タイ、ビルマから来た人々に会う時、私達は一種特別の親しみを感じる。いつもアメリカ人に圍まれて生活している時、これらの人々に会うと何かほつとした氣持になるのである。私の圍りのアメリカ人は殆ど、例外なしに親切である。しかし、これらの人々と会うと、又全く別の安堵感を感じるのである。

私はこの人々に会うと、日本との戰爭中に、どうであつたか尋ねてみることにしている。或る人々は、日本軍の空襲に悩まされたと言ふ。私達自身、經驗があるだけに、その一言で充分に理解できる。私が爆彈を落したわけではないけれど、「すまなかつた」と云うと「That all right」だと云つて、ここにこと笑つてすますのである。そして二度目に電車の中で会つたり、道で会つたりすると、もう同國人のように親しくなつてしまふ。私が電車をおりても、まだ窓から手を振つている。アジアの心持において私達は一致したものを持つているのだろうか。アメリカ人のようにピチ／＼してノビ／＼していかない。けれども私は親しみとなつかしきを感じる。むしろ、そのゆつくりと落着いて、慎しみのある物腰に親しみを

感ずる。

私達はよく、アメリカ人ヨーロッパ人は日本人を理解しない。日本文化を理解しないと言ふ。しかし私達、これらの同じアジアの隣國人を理解しているだろうか。彼らも彼らの誇りとし、愛着を持つ文化を持っている。一体彼らの文化を理解しているだろうか。理解しようという努力をしているだろうか。

此の親しみを感じることでできる人々、東南アジアの人々と、今度は軍隊を通してではなしに、人間と人間とが親しく往復し交際ができることを、心より望まざるを得ない。そして、そのためには、私達も亦、人間となつて、その人々を理解することが必須条件であり、共に生活する機会を持つような計画もほしいと思う。

これからの幼児教育の目標の中にも、いつの日か、これらの國々の人々と、交わることの出来ることを頭において、何かをしなければならぬと思う。

一体、何をしたらいいのだろうか。

ひまだからではない。孫がおちいちやま
と遊びたがるからだ。そのくせ、遊びだす
と、相手をする以上に身がはいる——「保
育論の原稿を書いていらつしやるよりも、
お骨がおれましよう」と、側のものが笑う。
たしかに、骨のおれる喜びだ。幼稚園主事
をよしてから、直接幼児と遊ぶ先生方の疲
れが分るといつては、遅すぎるかもしれな
い。喜びが今頃分つたと
いつては、遅くても結構
ですと、いわれよう。

その孫の一人、三歳に
なつた男の子が、或る日
おちいちやまのおとうさ
まとおかあさまとの写真の前に、かわい
い腰かけ一つで、お辞儀をしては、何か言つ
ている。い、おとうさま、い、おかあち
やまの、い、おとうさま、い、おかあさま
の、そのまた、い、おとうさま、い、おか
あさまであるから、や、こしい。たゞいつ
も、お菓子やくだものが、その前から自分
に与えられるのだから、孫達は、神ちやま

孫と遊ぶ
倉橋生

という言葉でよんでいる。そして、その時
言っているのはこうだ。……「僕大きな
つたら学校に行きます」これは、一年生の
姉が「私大きくなつたら病院の看護婦さん
になります」といつたのに倣つたのである
「僕おもちやがありまちゆ。ブランコがあ
りまちゆ。砂場がありまちゆ。お菓子があ
りまちゆ。リンゴがありまちゆ。ドウブ、

(ぶどうのこと)
がありまちゆ。神
ちやま、どうぞお
あがりくだちや
い。……」そうし
て、ベコンと頭を

さげた。
我々の祈りが、多く、こうして下さい、
何を下さいであるのと違つてこの子の祈り
は、自分の幸福の報告だ。要求でなく、祈
願でなく、報告だ。ありのまゝの報告だ。
その、その上結びが「ありがとうございま
す」でなくて「神ちやま僕の幸福を捧げま
す」だ。物をでなく、自分の幸福と喜びと
をだ。またしても孫に教えられる。

秋の保育應答研究会

一、十月十八日。
十一月十五日、十二月二十日
〔いづれも第三土曜日(午後一時半)
一、会場。フレイベル館講堂
来会随意。会費不要
一、講師。倉橋惣三先生

フレイベル館内
保育応答研究会係

幼児の教育 第五卷 第二号

定価 金五十円

昭和二十七年十一月二十日発行

東京都中央区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田神保町二ノ四

発売所 株式会社 フレイベル館

振替口座東京一九六四〇番

本誌御購讀について注文申込その他はすべて發賣
所フレイベル館宛願います

最新刊

増子とし先生編著

保育のための

上・下巻

(近日発売)

音楽カリキユラム

B5上製各巻共一四四頁 定価 一、二巻共四〇〇円
 従来、歌とおどりとが、別々のものとして取扱われる傾きがありましたが、本書は両者の密接不離のつなかりに重きをおいて、有機的立体的結合を主眼として、カリキユラムを組んであります。すなわち、一つの教材において運動・リズム、音楽のリズムその他を多角的に取扱っている点に本書の特色があります。

保育音楽リズムの權威たる、著者、増子とし先生の声望は夙に定評あるところで御座います。先生半生の苦心の成果がこの二巻に圧縮されていると申すも過言では御座いませぬ。

新遊具

トロツコ (特種木車使用)

定価 一、八〇〇円

屋内遊びにも、屋外運動にも、努力遊具として適切な新案
 特徴、前車輪方向回転式

わななげ (箱入り)

新型(大)A16号 五色輪五つ 定価六五〇円

新型(中)A14号 六色輪六つ 定価三〇〇円

台のつなぎ組立式、輪はあたらしくできた内蔵鋼鉄輪
 つなぎ輪

發行所

東京都千代田区神田神保町二ノ四

株式会社 フレーベル館

厚生省児童局編

待望の 保育指針 出づ!!

A5型 153頁 定価 130円 送料 30円

(お申込は振替又は小為替利用が便利です)

保育するということは安易なようで、なかなかむづかしい。こんだ保育所のみならず、他の児童福祉施設における保育の為に保育計画の立て方保育児童の問題など、児童福祉施設一般にわたる保育の専門事項を取り纏め、こゝに「保育指針」として上梓するようになった。本書の活用如何はかかつて保育に携る者の手腕と技術にまつべきであらうと思う。

厚生省児童局長 高田正巳序

【内容の一部】	保育の目標と原理	吉見 静江	道徳の育成	キユツクリツヒ
	生活の環境と調整	高島 巖	保育計画と自発性	副島 ハマ
	身体機能の発達	斎藤 文雄	保育計画とは何か	珠川 善子
	精神の発達	牛島 義友	1-2才幼児の保育	鈴木 とく
	生活指 導	堀 要	乳児院に於ける保育	星野きく代
	遊びの指 導	竹田 俊雄	看護施設に於ける保育	高島 巖
	能力の育 成	副島 ハマ	保育の実際問題	堀 要

東京都千代田区
神田司町一の二

財団法人 日本児童協會

振替 東京
一九五三二九番

12 月 号 予 告

観
察

キンダーブック

繪
本

KINDER-BOOK

第 7 集

【炭をつくってくれる人々】

第 9 編



☆お子さま方の感情と知識の
成育のために古く広く好評の高い本☆

A 4判・16頁・月一回発行
解 説 付
定価 45円・送料 8円

「炭をつくってくれる
人々」

けわしい坂路、淋しい
山小屋、木を切り、炭を
焼きつづける炭屋さん。

そこから麓へ、重い炭
俵を背に負って運び出す

人達、それを手伝う山の
子達、そうして、汽車か

ら貨物自動車へ、それか
らわれくくの町の炭屋さ

んの店へ。

その手教と労苦とは、
容易ならぬものです。――

多くの働く人々の、労
働の有りがたさを、幼い

子供達の心にも教えまし
よう。

発行所

東京都千代田区神田
神保町二丁目四番地

株式
会社

フレール館

振替口座東京
一六四〇番